



X-FIELD

現場端末システム [クロスフィールド]

入門編 (測量版)

使える!
わかる!



X-FIELD

基本操作からTS接続、観測までを
わかりやすく解説していきます。

画面構成・基本操作	1-1 ▶ 画面構成 P 3	
	1-2 ▶ タッチパネルでの操作 P 4	
	1-3 ▶ ソフトウェアキーボード P 6	
X-FIELDの画面構成を解説します。 基本的なタッチ操作・フリック操作、ソフトウェアキーボードも確認してみましょう。		
	2-1 ▶ TSかんたん接続(自動接続) P 7	
	2-2 ▶ TSとの手動接続 P10	
観測をおこなう際にはTSまたは電子レベルと接続する必要があります。Bluetooth搭載器械の場合は、プログラムの起動時に「TSかんたん接続」で接続することができます。	2-3 ▶ 電子レベルとの手動接続 P12	
観測	3-1 ▶ 既知点座標の入力 P13	
	3-2 ▶ 現況観測 P15	
	3-3 ▶ 対回観測 P18	
	3-4 ▶ 境界点観測 P22	
	3-5 ▶ 逆打ち観測 P25	
	3-6 ▶ 縦断観測 P27	
	3-7 ▶ 横断観測 P30	
	3-8 ▶ 出来形計測 P34	
	3-9 ▶ GNSS観測 P39	
X-FIELDでは、現況観測、対回観測、境界点観測、逆打ち観測、縦断観測、横断観測、出来形計測、GNSS観測をおこなうことができます。		
※縦断観測・横断観測は、縦横断観測オプションです。 出来形計測は、TS出来形観測オプションです。 GNSS観測は、RTK-GNSS(VRS)取込オプションです。		
数値地形(DM)	4-1 ▶ DM記号配置 P41	
数値地形図拡張DMオプションをお持ちのお客様はDM記号を配置することができます。		

本書の使い方

本書は、下図のようなイメージで構成され、実際の手順を番号付きで説明しています。初心者の方でも、簡単に操作方法をマスターすることができます。

3-5-2 逆打ち観測をおこなう

器械点と後視点の設定を終了したら、逆打ち観測をおこないます。
打設点までの水平角と距離が表示されますので、トータルステーションで打設点を観測して復元します。

- 1 CAD上で打設点をタップします。
- 2 [打設点一覧]で打設点を選択します。
- 3 [観測]をタップして、打設点を観測します。
- 4 画面に観測点までの方向と距離が表示されます。
- 5 方向と距離が0になるまで観測して、[確定]をタップします。

手順に対する場面を示しています。

章のタイトル名(ツメ)です。

機能や操作中のポイントを記載しています。

ページ番号です。 26

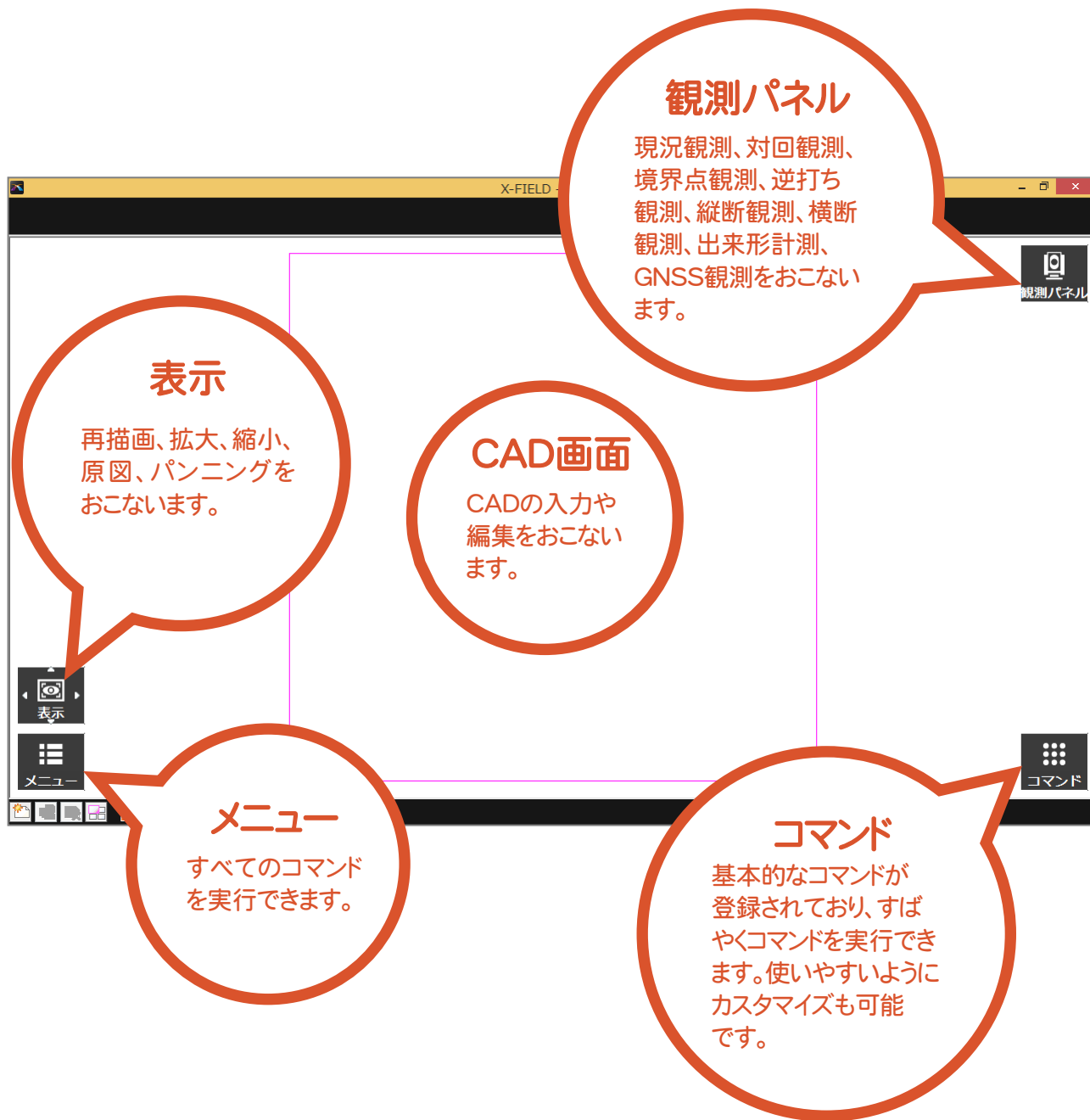
表記について

本書は、下記のような用語やマークを使用して、操作を解説しています。

用語	マーク	説明
タップ		画面を軽く叩くように、指(ペン)で1回だけ触れる操作のことです。
ドラッグ/フリック		画面をタッチしながら指(ペン)を移動し、移動後にその指(ペン)を離す動作のことです。
「 」		メッセージや入力する値などを表します。
[]		メニュー・コマンド・ボタン・画面などの名前を表します。

1-1 画面構成

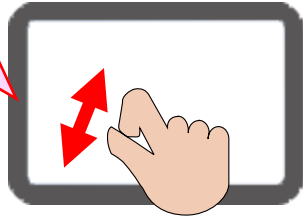
X-FIELDの画面構成を確認してみましょう。



1-2 タッチパネルでの操作

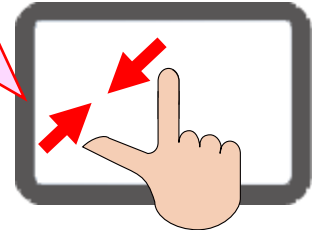
タッチパッドの搭載されたマルチタッチに対応するパソコンでは、指を使ってCAD画面のスクロール、拡大、縮小などをおこなうことができます。

2本の指で
拡大する範囲
をつまみ、2本
の指の間を
広げる



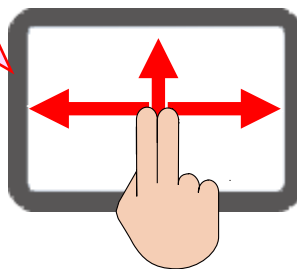
【ピンチアウト(拡大)】

2本の指で
縮小する範囲
をつまみ、2本
の指の間を
縮める

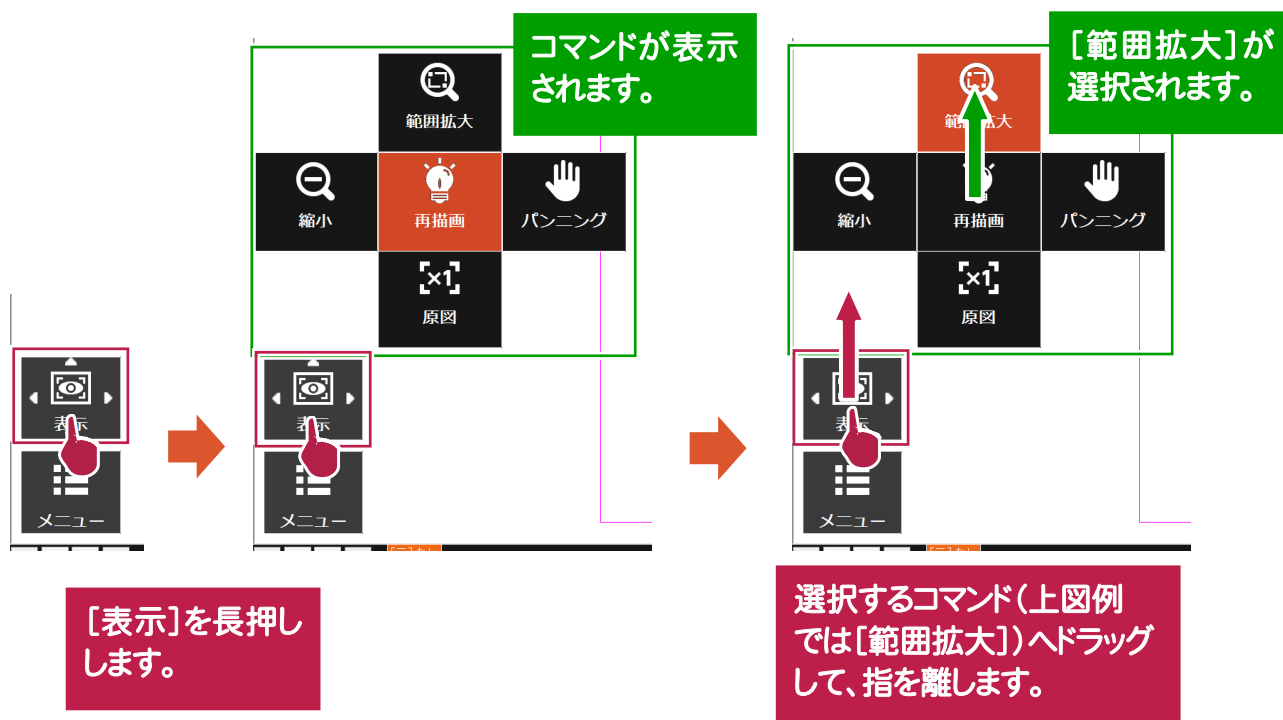


【ピンチイン(縮小)】

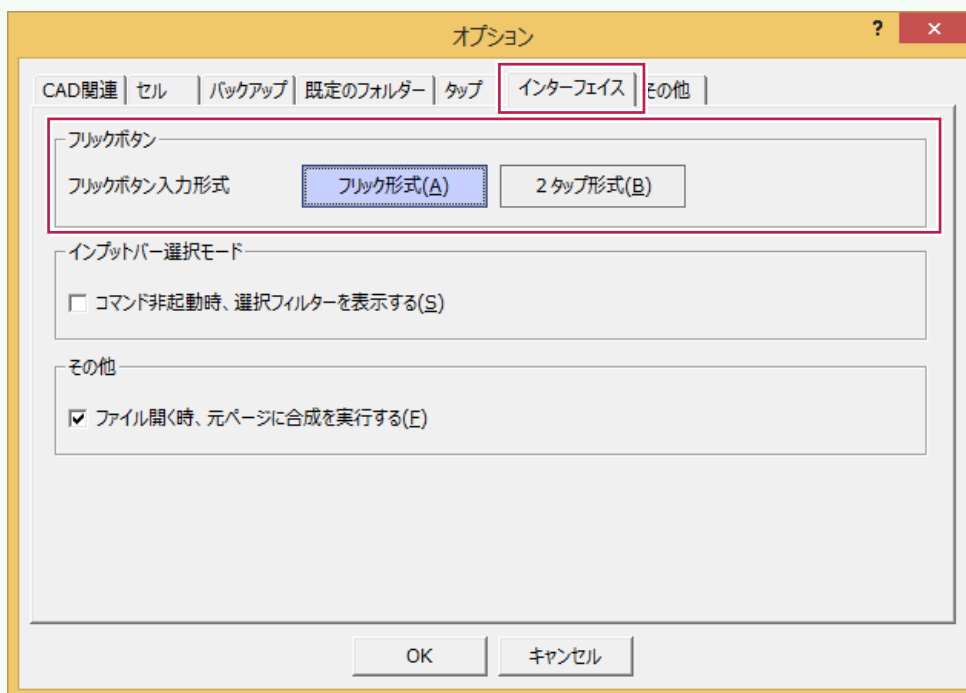
2本の指で画面を
タッチしてスクロー
ルする方向に指で
軽くはらう(※1本指
の場合は要素選択
になるので注意)



指での操作がおこないやすいようにフリック操作に対応しました。
ここでは、[表示]で[範囲拡大]を選択してみましょう。



パナソニック TOUGHBOOK CF-19 をお使いの場合は、2タップ操作をお勧めします。フリック操作と2タップ操作の切り替えは、
[メニュー]—[ツール]—[オプション]の[インターフェイス]タブの
[フリックボタン入力形式]でおこないます。



1-3 ソフトウェアキーボード

文字を入力するときは、専用のソフトウェアキーボードが自動で表示されます。
文字は「フリック入力」(スマートフォン方式)または「トグル入力」(携帯電話方式)で入力します。
ここでは、「フリック入力」で文字を入力する操作を解説します。

ソフトウェアキーボード

マ行の文字が表示されます。

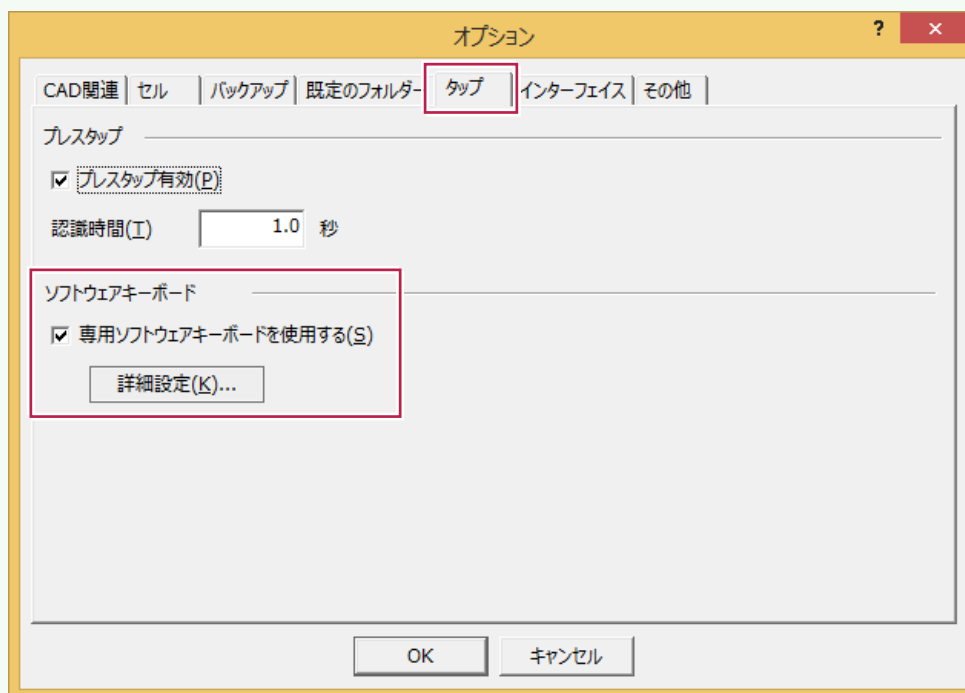
[カナ]をタップします。

[マ]を長押しします。

入力する文字(上図例では[マ])へドラッグして、指を離します。



ソフトウェアキーボードの設定は、[メニュー]—[ツール]—[オプション]の[タップ]タブの[ソフトウェアキーボード]で変更できます。

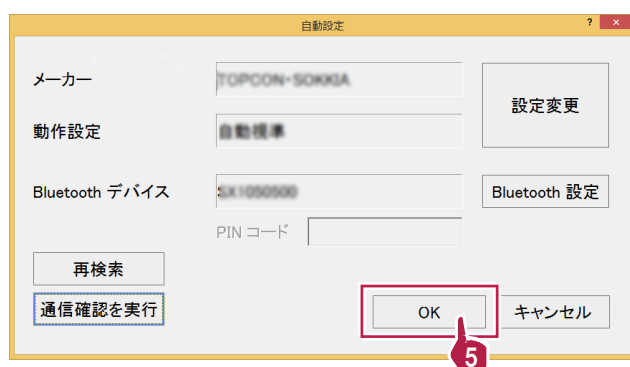
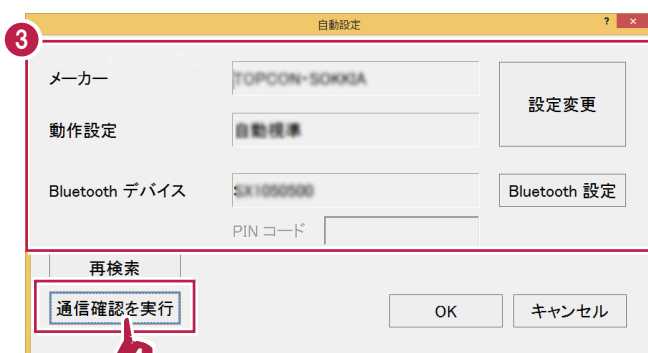
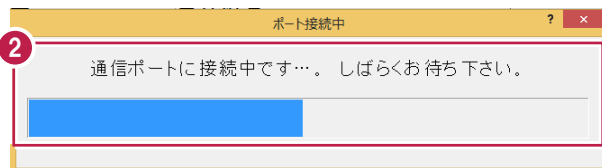
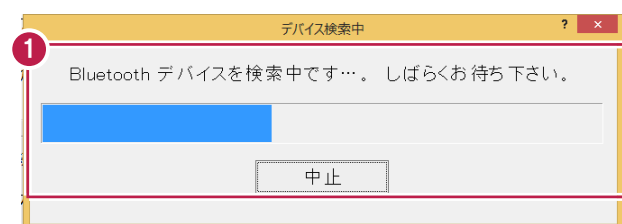


2-1 TSかんたん接続(自動接続)

Bluetoothを搭載したTS(トータルステーション)とX-FIELDを、「TSかんたん接続」で接続します。

インストール直後など、TS(トータルステーション)と接続設定されていない場合は、以下の観測系コマンドの実行時に「TSかんたん接続」が実行されます。

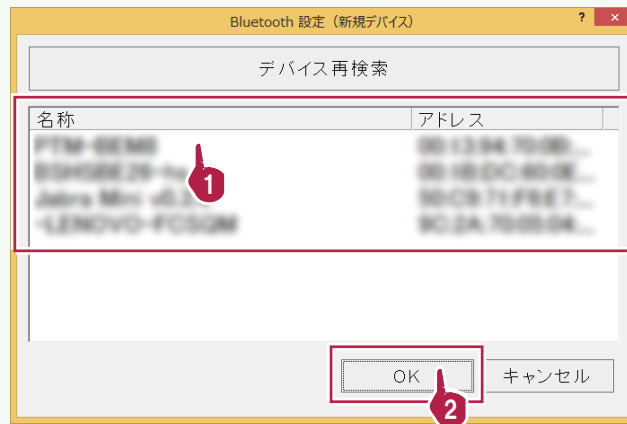
- [現況観測] [現況観測データ一覧]
- [対回観測] [対回観測データ一覧]
- [境界点観測] [境界点観測データ一覧]
- [逆打ち観測]
- [横断観測]
- [出来形計測] – [出来形計測]
- [出来形計測] – [出来形点検]



- 1 上記の観測系コマンドを実行すると、Bluetoothデバイスの検索がおこなわれます。
- 2 通信ポートに接続されます。
- 3 [自動設定]ダイアログが表示されますので、設定の確認と変更(PINコードの入力が必要な場合は、器械に設定されているPINコードの入力)をおこなってください。
- 4 設定の確認を終了したら、TSを観測可能状態にして[通信確認を実行]をタップします。
- 5 通信が正しくおこなえたら、[OK]をタップします。器械とX-FIELDが接続されます。通信が正しくおこなえない場合は、設定を見直して再度③④の操作をおこなってください。

Bluetooth のデバイスが複数検索された場合は

Bluetooth デバイスの一覧が表示されますので、接続する器械を選択してください。



Bluetooth を使用しない場合は

[キャンセル]をタップして、[自動設定]ダイアログを閉じてください。

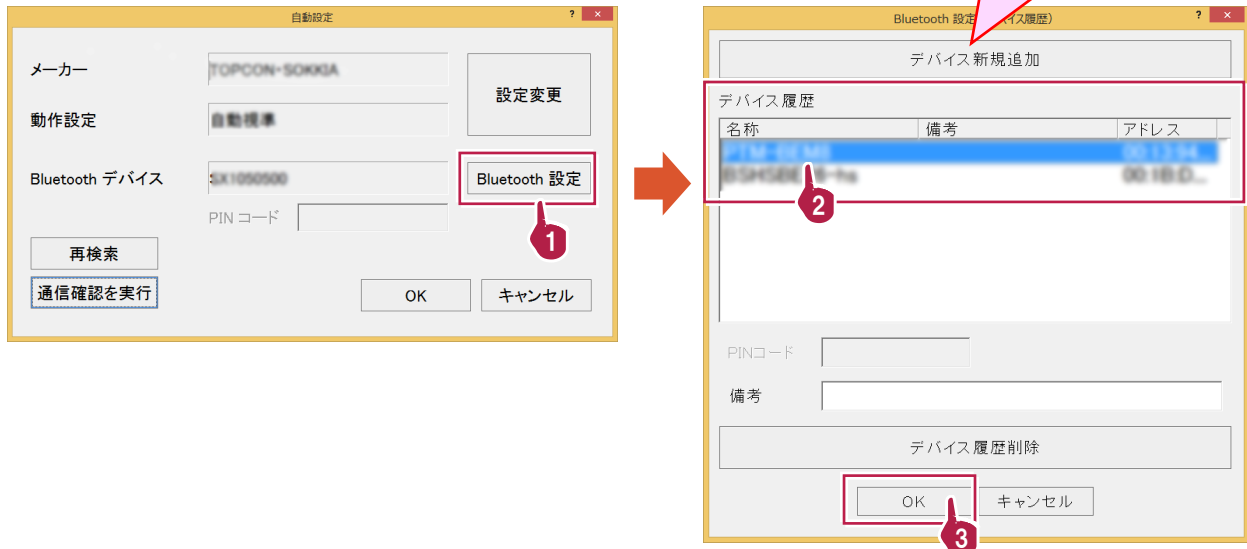




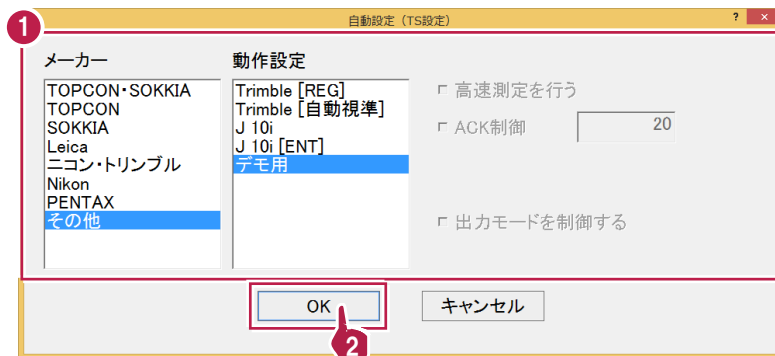
自動接続がうまくいかない場合は

- コンピューターと TS の Bluetooth が、両方ともオンになっていることを確認してください。
- 自動接続で設定されたデバイス名を確認してください。デバイス名が異なっている場合は、[Bluetooth 設定] をタップして表示される一覧から、使用する器械を選択してください。

一覧に無い場合は、[デバイス新規追加] をタップして、使用する器械を選択してください。



- デバイス名が正しいのに通信できない場合は、[設定変更] から表示されるダイアログで、[メーカー] や [動作設定] などの設定を確認・変更してください。また、「デバイスが 1 台も検索できなかった場合」「TS の機種が特定できなかった場合」にも、このダイアログが表示されますので、設定を確認・変更してください。



2-2 TSとの手動接続

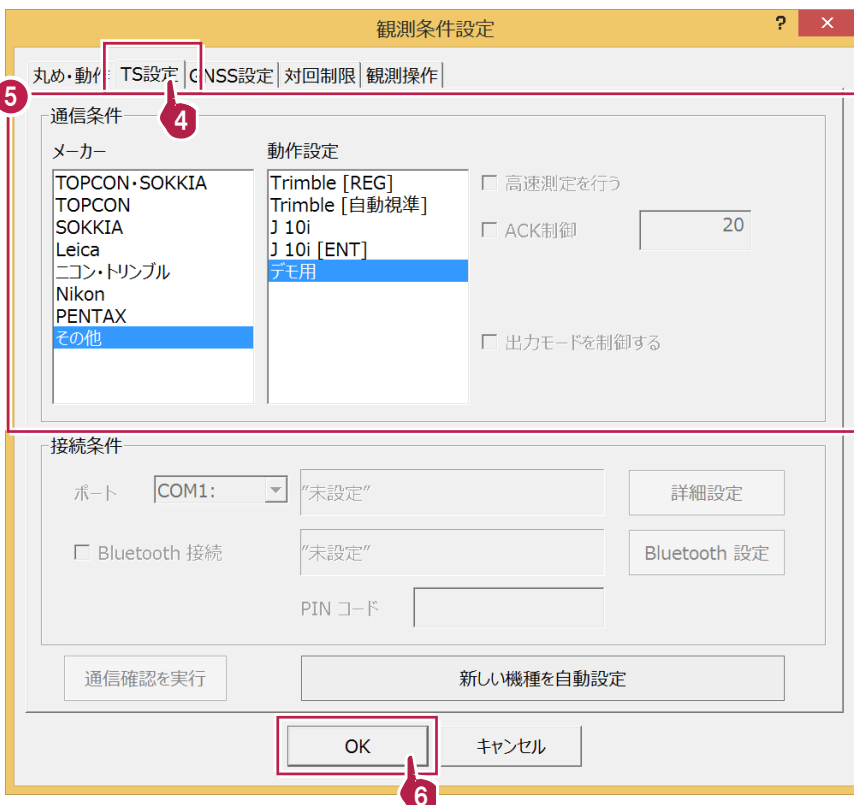
Bluetooth が搭載されていない TS や、「TS かんたん接続」がうまくいかない場合は、手動で TS (トータルステーション) と接続します。

TSとの手動接続



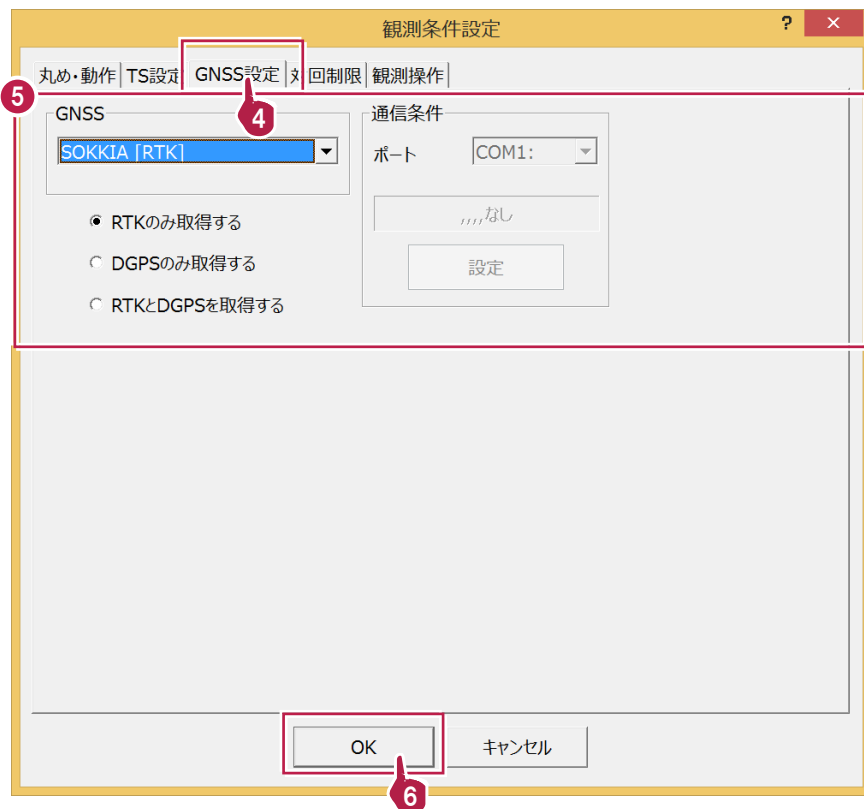
- 1 [メニュー]をタップします。
- 2 [数値地形2]をタップします。
- 3 [観測条件設定]をタップします。

現況、対回、境界点、逆打ち、横断、出来形計測の場合



- 4 [TS設定]タブをタップします。
- 5 接続機種や通信条件を設定します。
- 6 [OK]をタップします。

GNSS観測の場合

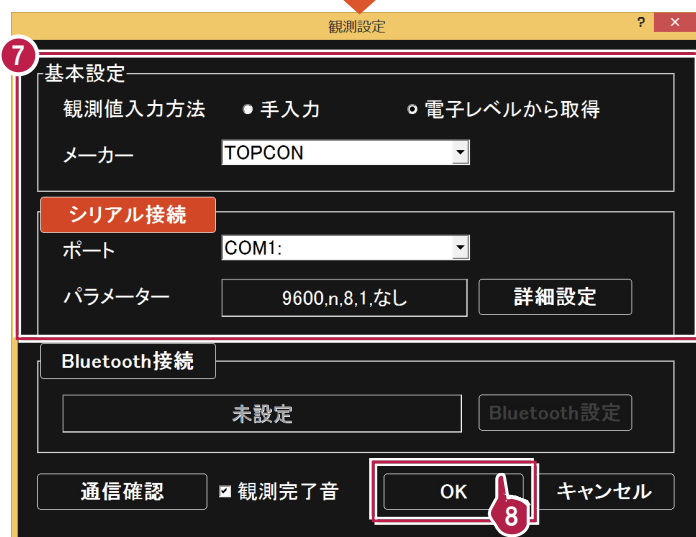
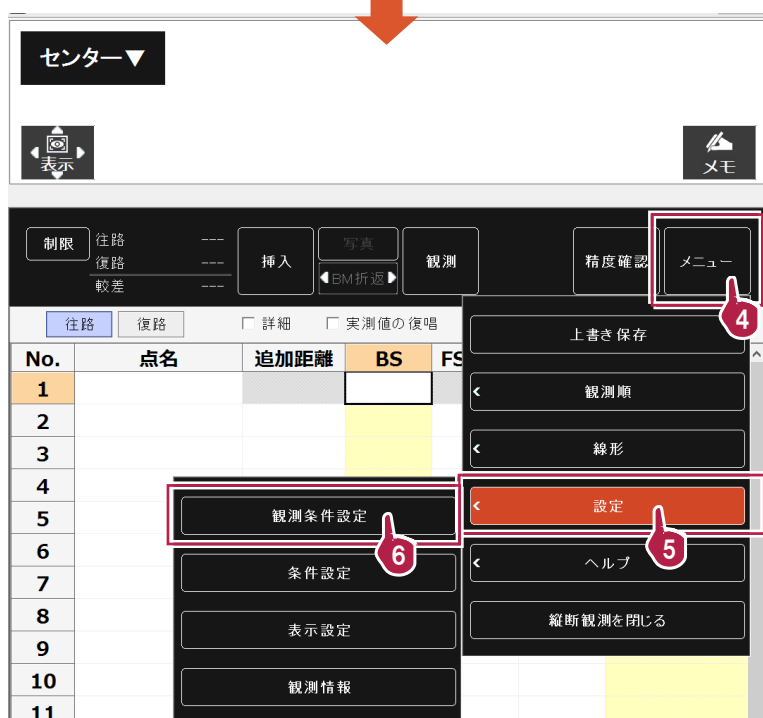
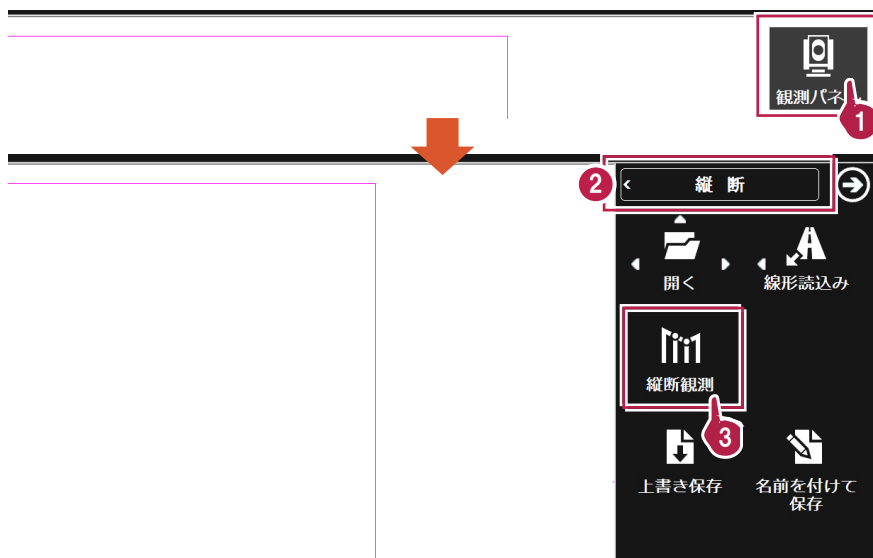


- 4 [GNSS設定]タブをタップします。
- 5 接続機種や通信条件を設定します。
- 6 [OK]をタップします。

2-3 電子レベルとの手動接続

縦断観測では、電子レベルと接続して測定値を取り込むことができます。

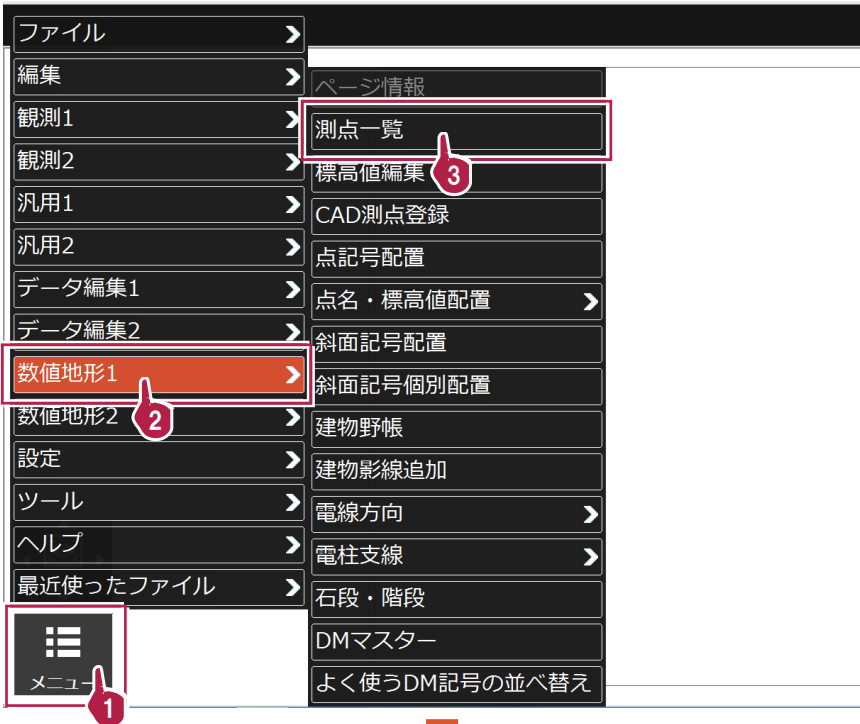
電子レベルとの手動接続



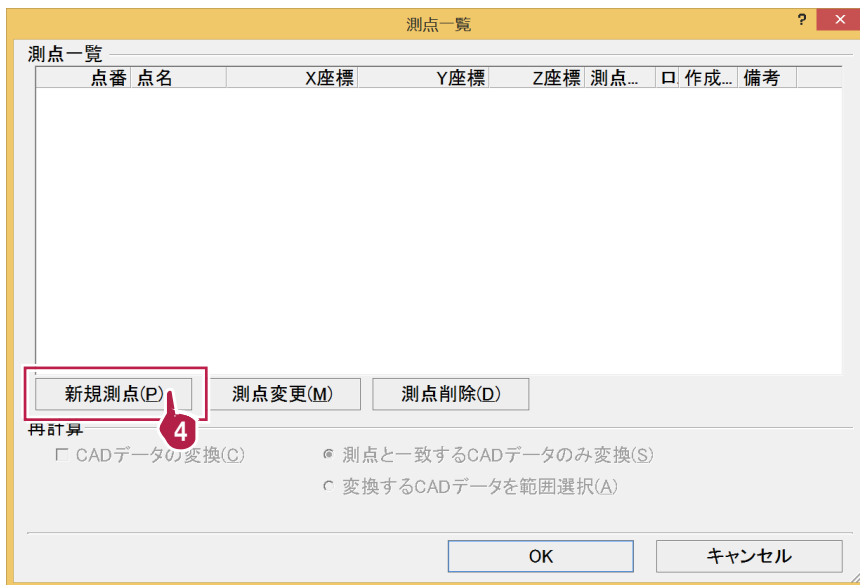
- 1 [観測パネル]をタップします。
- 2 [縦断]を選択します。
- 3 [縦断観測]をタップします。
- 4 [メニュー]をタップします。
- 5 [設定]をタップします。
- 6 [観測条件設定]をタップします。
- 7 接続機種や通信条件を設定します。
- 8 [OK]をタップします。

3-1 既知点座標の入力

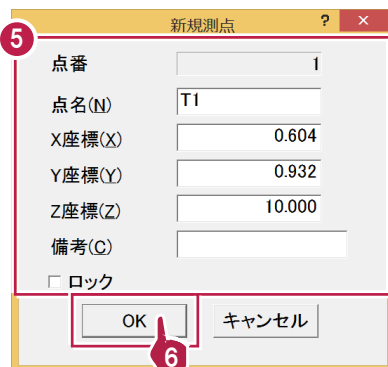
既知点座標を入力します。ここでは、座標を手入力する操作を解説します。



- 1 [メニュー]をタップします。
- 2 [数値地形1]をタップします。
- 3 [測点一覧]をタップします。



- 4 [新規測点]をタップします。

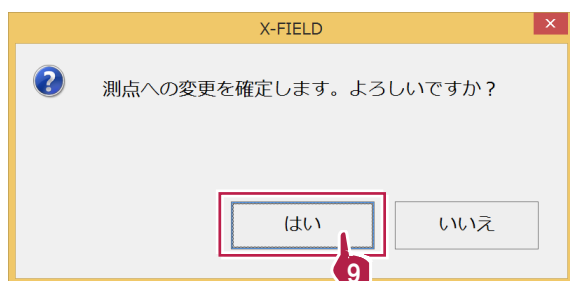


- 5 点名、X座標、Y座標、Z座標を入力します。
- 6 [OK]をタップします。

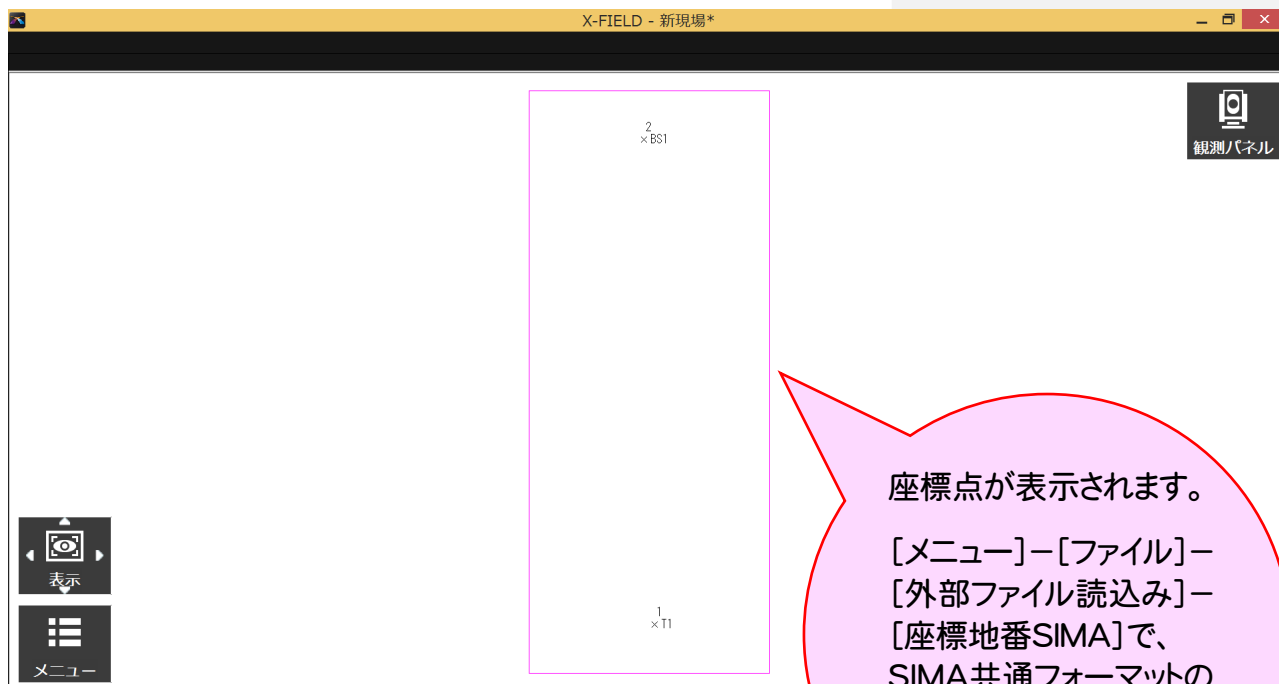


7 ④⑤⑥の操作を繰り返して他の座標も同様に入力します。

8 入力を終了したら、[OK]をタップします。



9 [はい]をタップします。



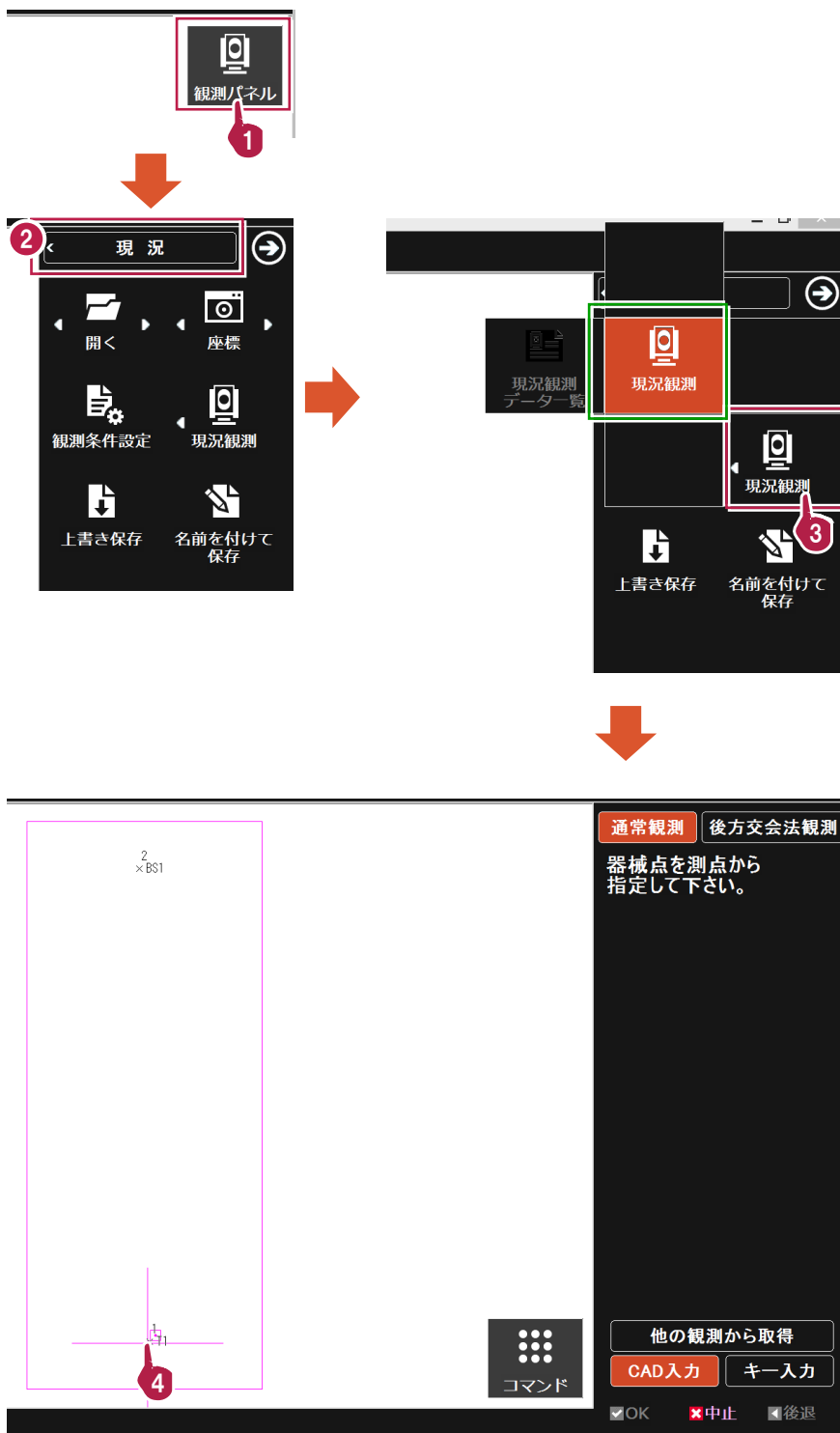
座標点が表示されます。
 [メニュー]—[ファイル]—
 [外部ファイル読み込み]—
 [座標地番SIMA]で、
 SIMA共通フォーマットの
 データ(座標、地番)を
 読み込むこともできます。

3-2 現況観測

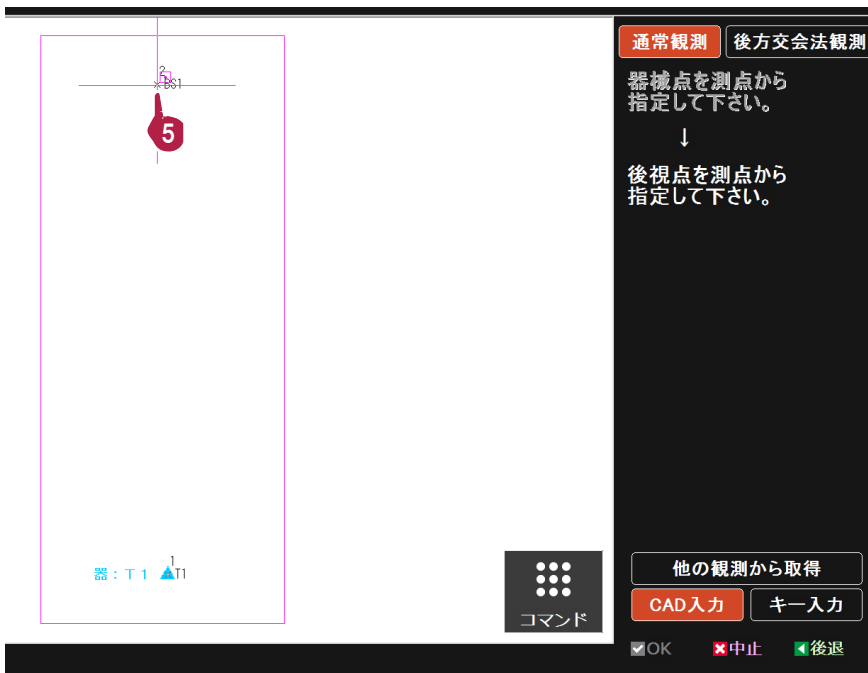
観測パネルで、[現況]を選択します。

3-2-1 器械点・後視点を設定する

[現況観測]の初回実行時には、まず器械点と後視点を設定します。
現場に器械を設置したら、以下の操作をおこなってください。



- 1 [観測パネル]をタップします。
- 2 [現況]を選択します。
- 3 [現況観測]をフリックして、[現況観測]を選択します。
- 4 器械を設置した測点を、CAD上でタップします。



5 後視点とする測点を、CAD上でタップします。



6 器械高を入力します。

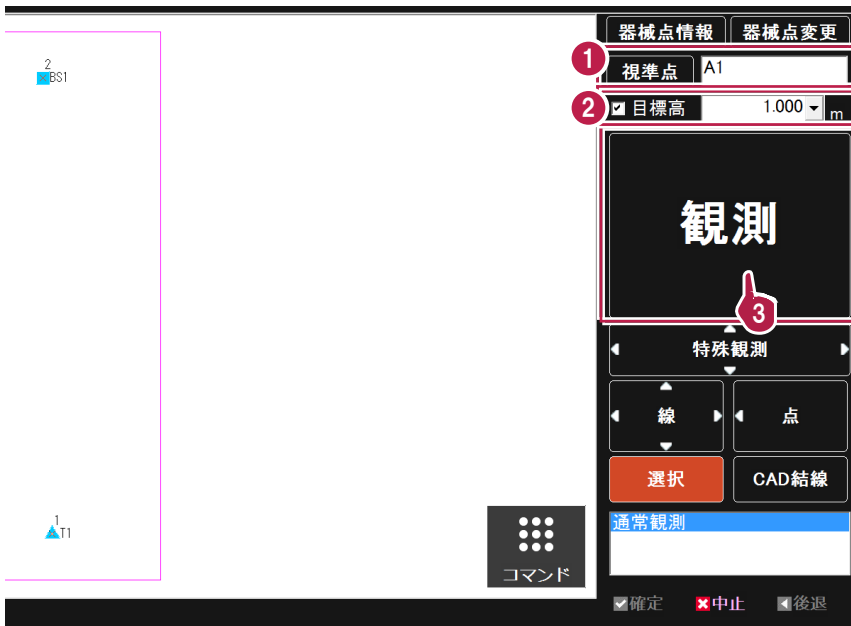
7 目標高を入力します。

8 [観測]をタップします。



3-2-2 現況観測をおこなう

器械点と後視点の設定を終了したら、現況観測をおこないます。



- 1 視準点名を入力します。
- 2 目標高を入力します。
- 3 [観測]をタップします。



[線]や[点]を選択して、観測しながら同時に現況線の結線や点記号などの配置をおこなうことができます。詳細は、ヘルプを参照してください。



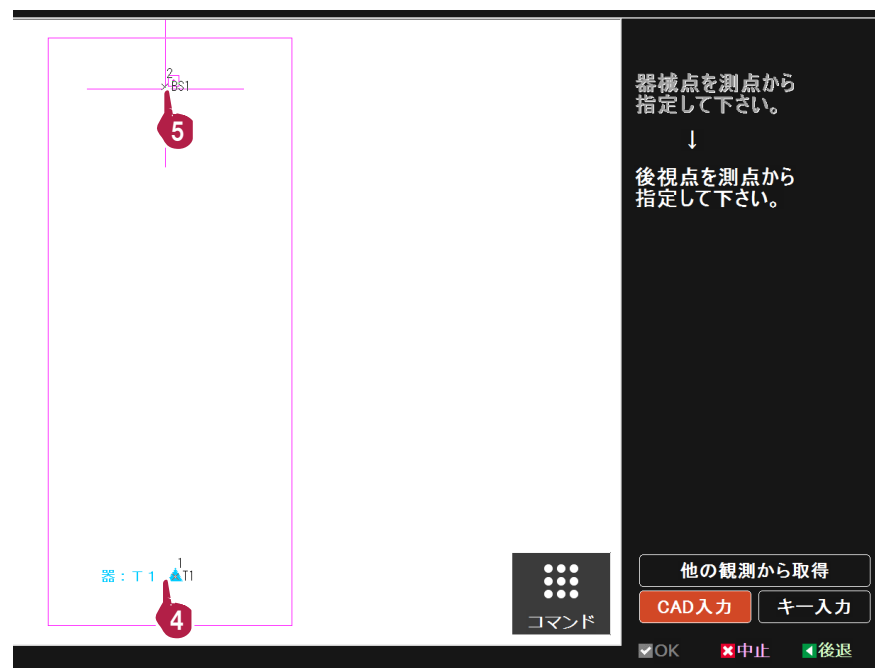
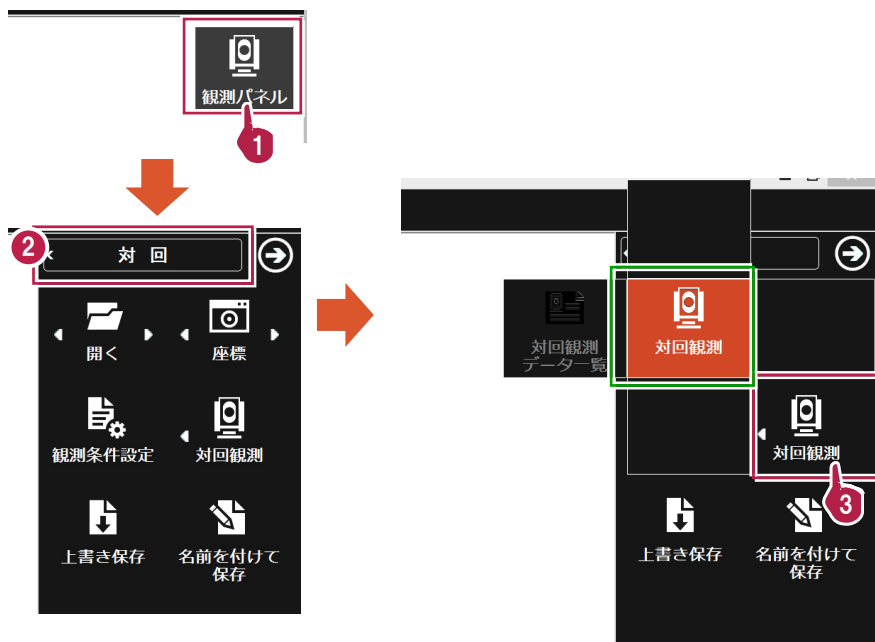
3-3 対回観測

観測パネルで、[対回]を選択します。

3-3-1 器械点・後視点を設定する

[対回観測]の初回実行時には、まず器械点と後視点を設定します。
現場に器械を設置したら、以下の操作をおこなってください。

対回観測



- 1 [観測パネル]をタップします。
- 2 [対回]を選択します。
- 3 [対回観測]をフリックして、[対回観測]を選択します。
- 4 器械を設置した測点を、CAD上でタップします。
- 5 後視点とする測点を、CAD上でタップします。
- 6 器械高を入力します。
- 7 [完了]をタップします。



3-3-2 対回観測をおこなう

器械点と後視点の設定を終了したら、対回観測をおこないます。



- 1 正観測をおこないます。まず、後視点を観測します。後視距離を観測しない場合は、[距離観測]で「なし」を選択します。
- 2 目標高を入力します。
- 3 [観測]をタップして、後視点を観測します。
- 4 観測データを確認します。
- 5 [OK]をタップします。



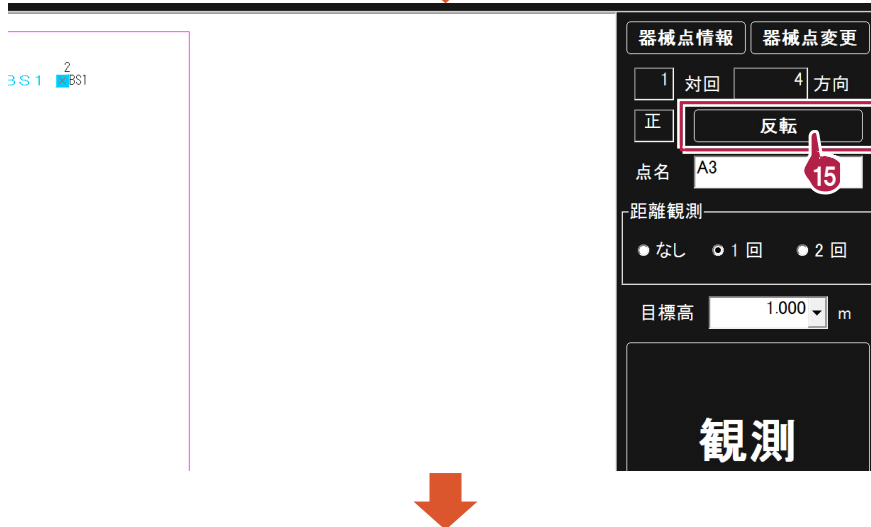
- 6 視準点(求点)を観測します。視準点の点名を入力します。
- 7 ここでは、距離を1回観測するので、[距離観測]で「1回」を選択します。
- 8 目標高を入力します。
- 9 [観測]をタップして、視準点を観測します。
- 10 観測データを確認します。
- 11 [OK]をタップします。



12 他にも視準点がある場合は、⑥⑦⑧⑨の操作を繰り返して、観測します。

13 観測データを確認します。

14 [OK]をタップします。



15 正観測を終了したら反観測をおこないます。
 器械を反転(鉛直角が 180° ~ 359° になった場合)すると、自動的に反観測に変わります。
 [反転]をタップして反観測に切り換えることもできます。

16 反観測をおこないます。
 ⑦⑧⑨の操作を繰り返して、視準点を観測します。



17 観測データを確認します。

18 [OK]をタップします。



19 他にも視準点がある場合は、⑦⑧⑨の操作を繰り返して、観測します。

20 観測データを確認します。

21 [OK]をタップします。



22 反観測で後視点を観測します。

23 観測データを確認します。

24 [OK]をタップします。

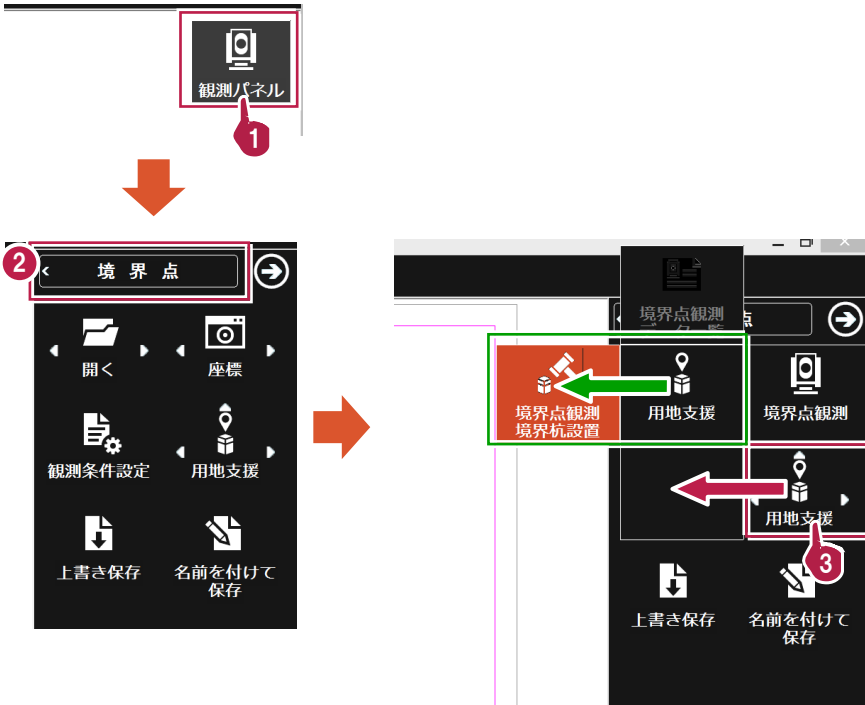
1 対回の観測が終了したら、[観測]が選択不可能になり、[対回開始][精度表示]が選択可能になります。
 2 対回目以降の観測は、[対回開始]をタップします。
 観測が終了したら、[中止]をタップします。

3-4 境界点観測

観測パネルで、[境界点]を選択します。

3-4-1 境界杭を設置する

境界点観測で使用する杭(境界杭または独立杭)を設置します。



- 1 [観測パネル]をタップします。
- 2 [境界点]を選択します。
- 3 [用地支援]を左へフリックして、[境界点観測境界杭設置]を選択します。



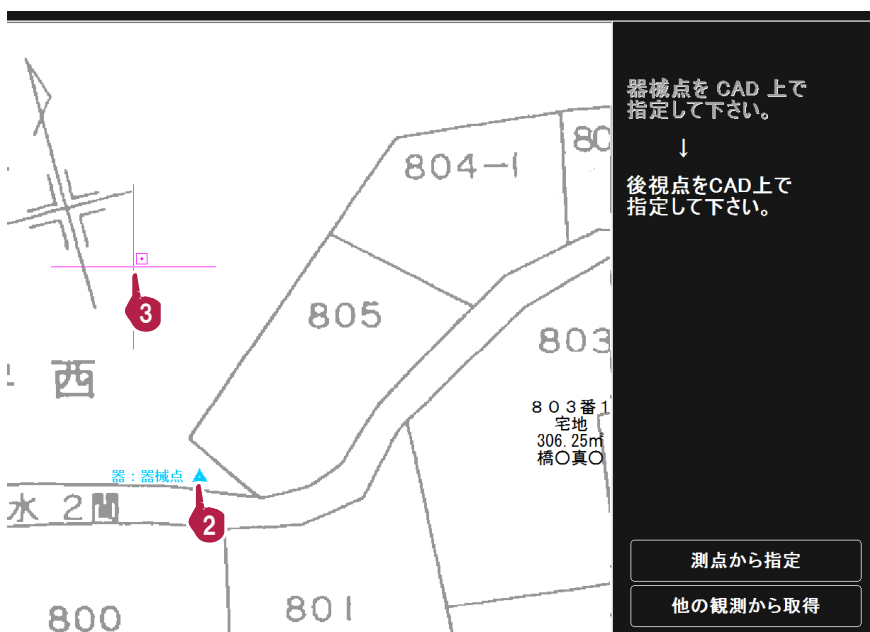
- 4 設置する杭の種類を選択します。ここでは[境界杭]をタップします。
- 5 設置する杭の名称を設定します。左側に「接頭語」、右側に「連番」を入力してください。
- 6 CAD画面上で杭を設置する位置をタップします。

3-4-2 器械点・後視点を設定する

器械点と後視点を設定します。現場に器械を設置したら、以下の操作をおこなってください。



1 [器械点設置]をタップします。



2 器械点とする点を、CAD上でタップします。

3 後視点とする点を、CAD上でタップします。



4 [観測]をタップして、後視点を観測します。

3-4-3 境界点観測をおこなう

器械点と後視点の設定を終了したら、境界点観測をおこないます。



1 観測する杭をタップします。



2 [観測]をタップします。



観測済みの杭には緑色のピンが表示されます。



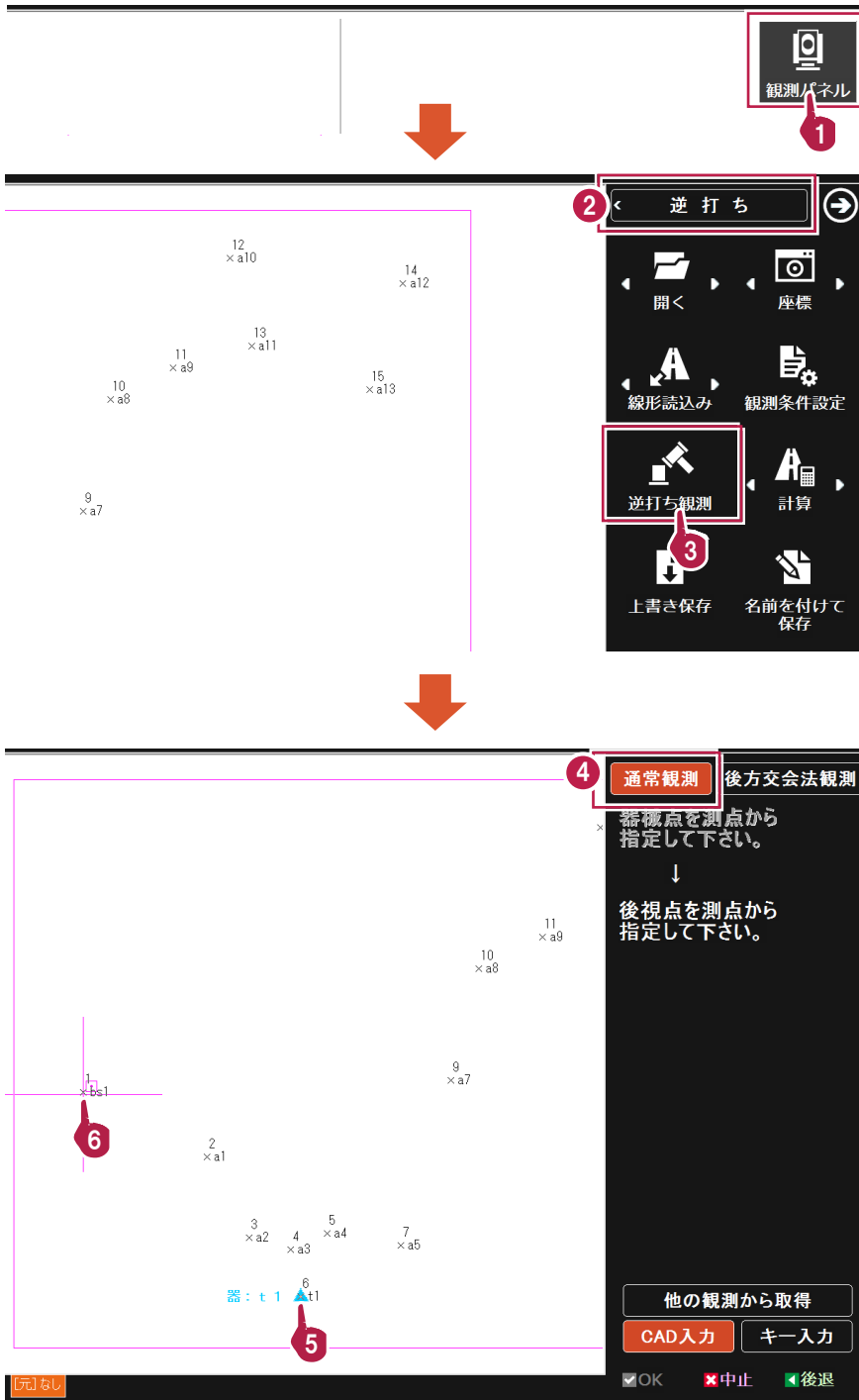
①②の操作を繰り返して、境界杭・独立杭を
観測します。
観測が終了したら、[中止]をタップします。

3-5 逆打ち観測

観測パネルで、[逆打ち]を選択します。

3-5-1 器械点・後視点を設定する

[逆打ち観測]の初回実行時には、まず器械点と後視点を設定します。現場に器械を設置したら、以下の操作をおこなってください。

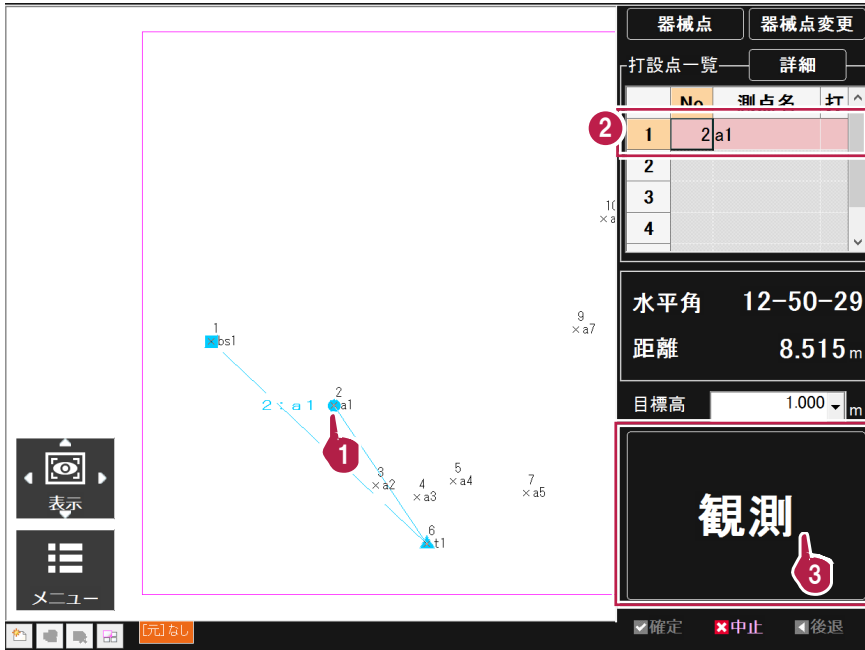


- 1 [観測パネル]をタップします。
- 2 [逆打ち]を選択します。
- 3 [逆打ち観測]をタップします。
- 4 ここでは通常観測で設置する(測点上に器械を設置する)ので、[通常観測]を選択します。
- 5 器械を設置した測点を、CAD上でタップします。
- 6 後視点とする測点を、CAD上でタップします。
- 7 器械高を入力します。
- 8 目標高を入力します。
- 9 [観測]をタップして、後視点を観測します。

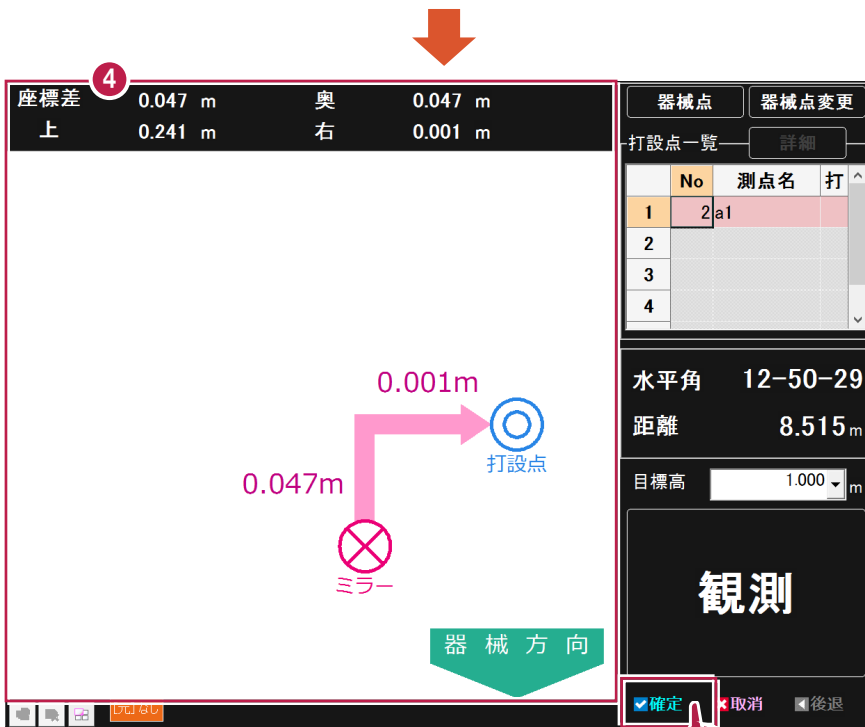
3-5-2 逆打ち観測をおこなう

器械点と後視点の設定を終了したら、逆打ち観測をおこないます。

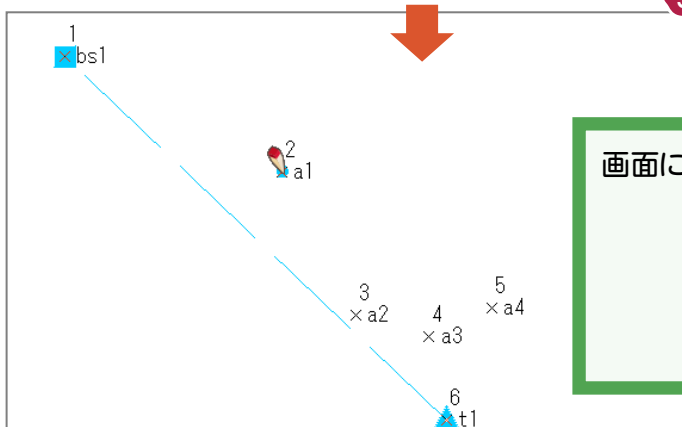
打設点までの水平角と距離が表示されますので、トータルステーションで打設点を観測して復元します。



- 1 CAD上で打設点をタップします。
- 2 [打設点一覧]で打設点を選択します。
- 3 [観測]をタップして、打設点を観測します。



- 4 画面に観測点までの方向と距離が表示されます。
- 5 方向と距離が0になるまで観測して、[確定]をタップします。

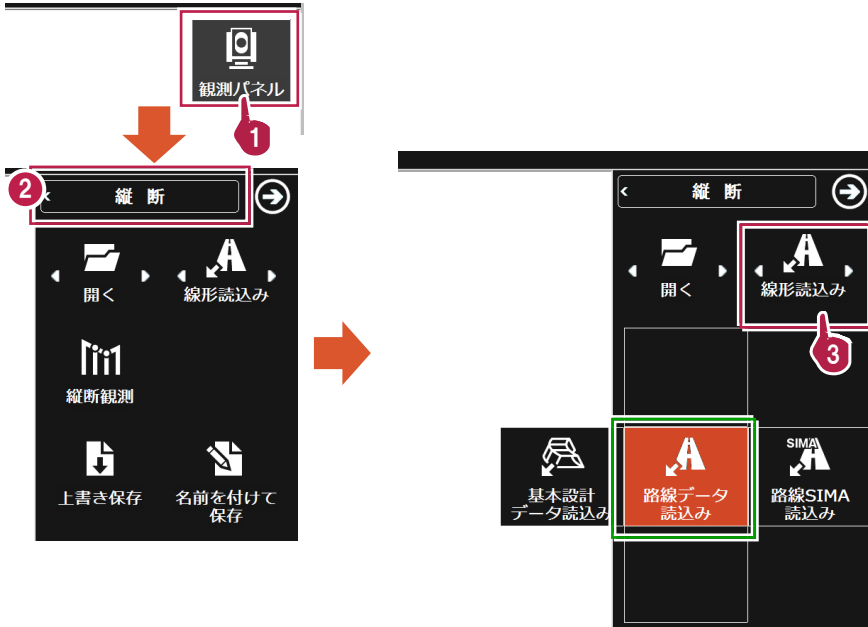


3-6 縦断観測

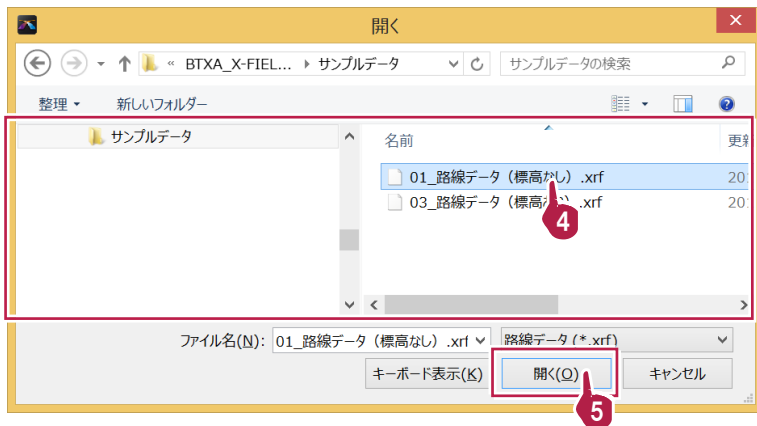
観測パネルで、[縦断]を選択します。縦断観測は、**縦画面**で使用することをお勧めします。

3-6-1 路線データを読み込む

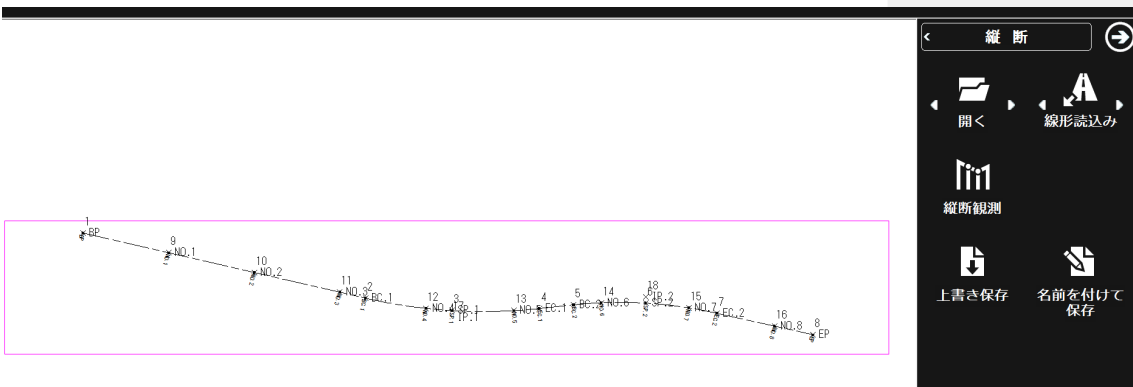
BLUETREND XA で作成した路線データを読み込むことができます。



- 1 [観測パネル]をタップします。
- 2 [縦断]を選択します。
- 3 [線形読み込み]をフリックして、[路線データ読み込み]を選択します。

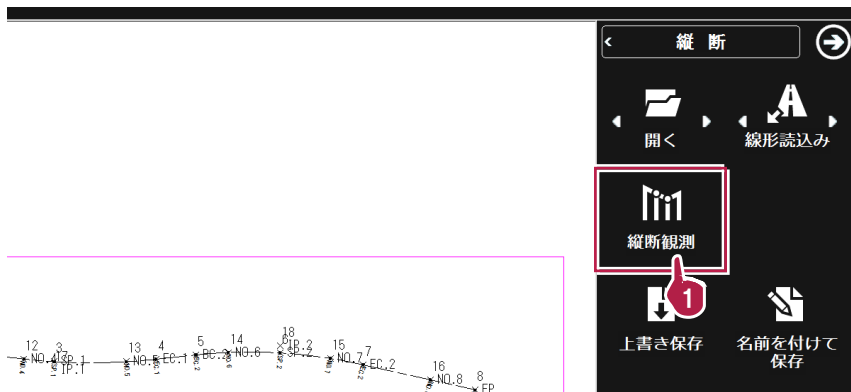


- 4 読み込むファイルをタップします。
- 5 [開く]をタップします。

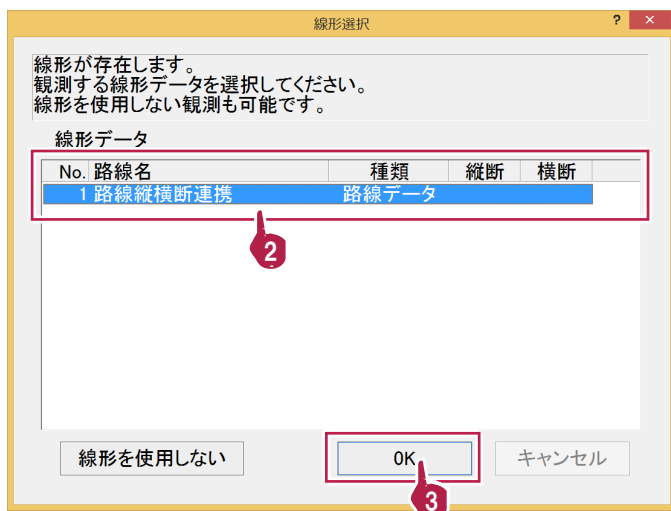


3-6-2 縦断観測をおこなう

縦断観測をおこないます。ここでは、読み込んだ線形データを使用して観測をおこないます。

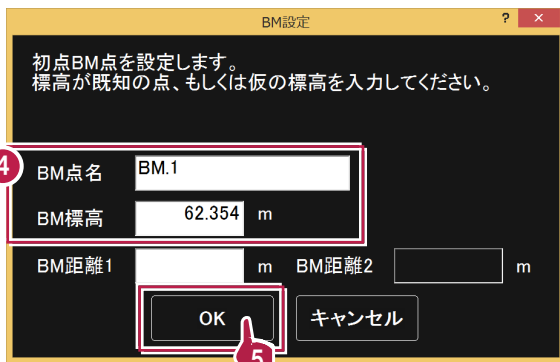


1 [縦断観測]をタップします。



2 観測する線形データを選択します。

3 [OK]をタップします。



4 BM点名、BM標高を入力します。

5 [OK]をタップします。

6 初点BMのBSを入力します。



センター▼

制限 往路 67.651 復路 --- 較差 --- 挿入 写真 観測 精度確認 メニュー

往路 復路 詳細 実測値の復唱 セル

No.	点名	追加距離	BS	FS/DH	杭下	構造物等
1	BM.1		3.013			
2	BP	0.000		3.208	3.321	
3	NO.1	20.000		3.087	3.172	
4	NO.2	40.000		2.583	2.696	
5	NO.2+5.2	45.200		2.563	2.676	
6	NO.2+6.7	46.700			3.679	HPφ300
7	NO.2+11.7	51.700			3.670	HPφ300
8	NO.2+14.8	54.800		2.555	2.671	
9	NO.3	60.000	3.602	2.469	2.572	
10	BC.1	65.977		3.429	3.558	
11	NO.4	80.000		2.890	2.973	
12	SP.1	85.912		2.669	2.791	
13	NO.5	100.000	3.690	1.709	1.872	
14	EC.1	105.846		3.182	3.232	
15	BC.2	113.667		2.672	2.795	
16	NO.6	120.000		2.428	2.583	
17	SP.2	130.095		2.310	2.772	
18	NO.7	140.000		2.092	2.203	
19	EC.2	146.523		2.025	2.166	
20	NO.7+15.200	155.200			3.355	BOX400×400
21	NO.8	160.000		2.051	2.173	
22	EP	168.916		2.159	2.317	
23	BM.2			0.830		

7 往路の観測データを入力します。

8 往路の観測データを完了したら、[復路]をタップします。

9 復路の観測データを入力します。

往路、復路の標高値、較差が表示されます。[制限]で往復の標高差の制限を設定できます。

センター▼

制限 往路 57.050 復路 57.047 較差 0.003 挿入 写真 観測 精度確認 メニュー

往路 復路 詳細 実測値の復唱 セル

No.	点名	追加距離	BS	FS/DH	杭下	構造物等
1	BM.2		1.902			
2	EP	168.916		3.237	3.364	
3	NO.8	160.000		3.126	3.251	
4	NO.7+15.200	155.200				BOX400×400
5	EC.2	146.523		3.096	3.229	
6	NO.7	140.000		3.163	3.309	
7	SP.2	130.095		3.386	3.812	
8	NO.6	120.000		3.505	3.672	
9	BC.2	113.667		3.744	3.892	
10	EC.1	105.846		4.253	4.402	
11	NO.5	100.000	1.502	4.764	4.892	
12	SP.1	85.912		2.467	2.619	
13	NO.4	80.000		2.682	2.821	
14	BC.1	65.977		3.224	3.397	
15	NO.3	60.000	2.219	3.396	3.518	
16	NO.2+14.8	54.800		2.308	2.456	
17	NO.2+11.7	51.700				HPφ300
18	NO.2+6.7	46.700				HPφ300
19	NO.2+5.2	45.200		2.311	2.378	
20	NO.2	40.000		2.333	2.481	
21	NO.1	20.000		2.837	2.999	
22	BP	0.000		2.957	3.092	
23	BM.1			2.766		

縦断観測

電子レベルが接続されている場合は観測するセル([BS][FS/DH][杭下])を選択し、[観測]をタップして、レベルを観測します。選択したセルに電子レベルの観測データが取り込まれます。

制限 往路 --- 復路 --- 較差 --- 挿入 写真 観測

往路 復路 詳細 実測値の復唱

No.	点名	追加距離	BS	FS/DH	杭下	構造物等
1	BM.1		3.013			
2	BP	0.000				

↓

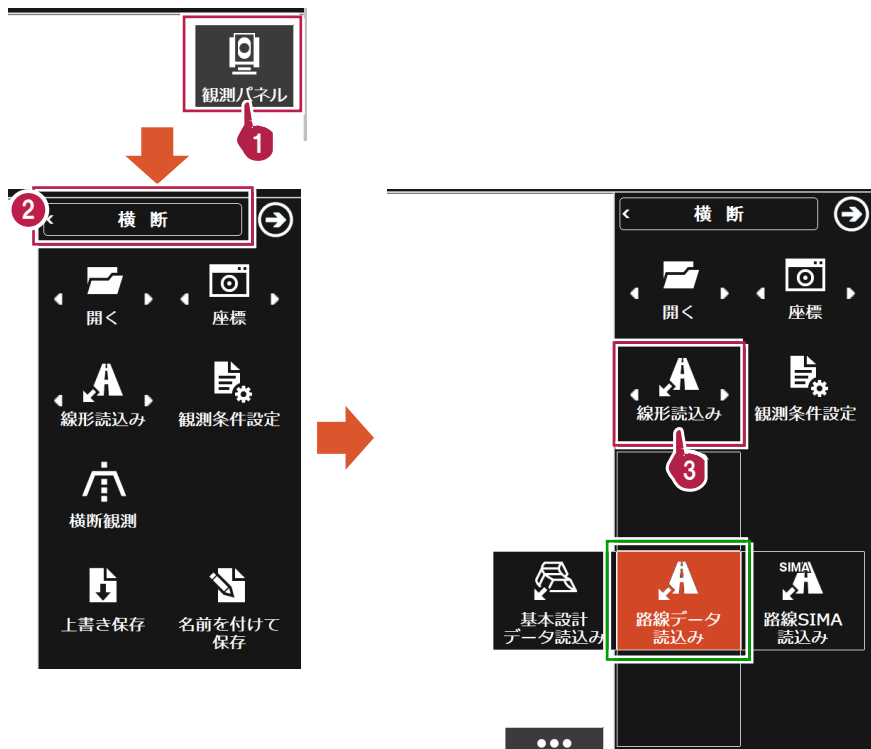
No.	点名	追加距離	BS	FS/DH	杭下	構造物等
1	BM.1		3.013			
2	BP	0.000		3.208		

3-7 横断観測

観測パネルで、[横断]を選択します。

3-7-1 路線データを読み込む

BLUETREND XA で作成した路線データを読み込むことができます。



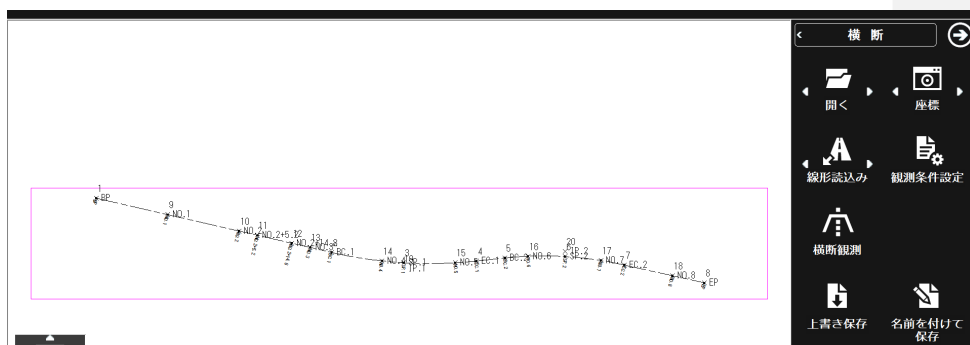
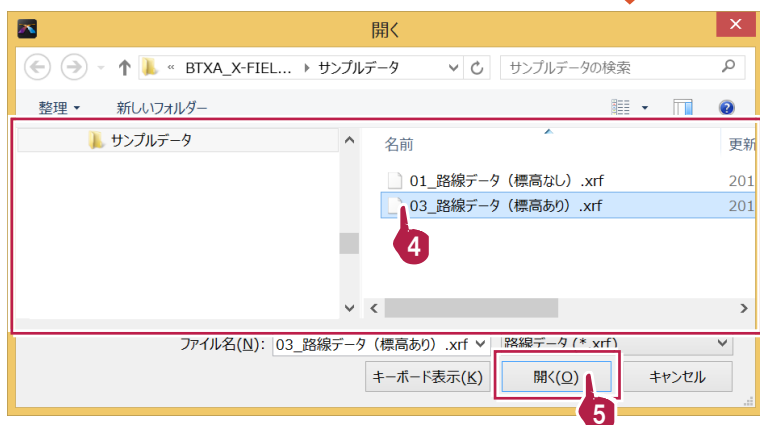
1 [観測パネル]をタップします。

2 [横断]を選択します。

3 [線形読み込み]をフリックして、[路線データ読み込み]を選択します。

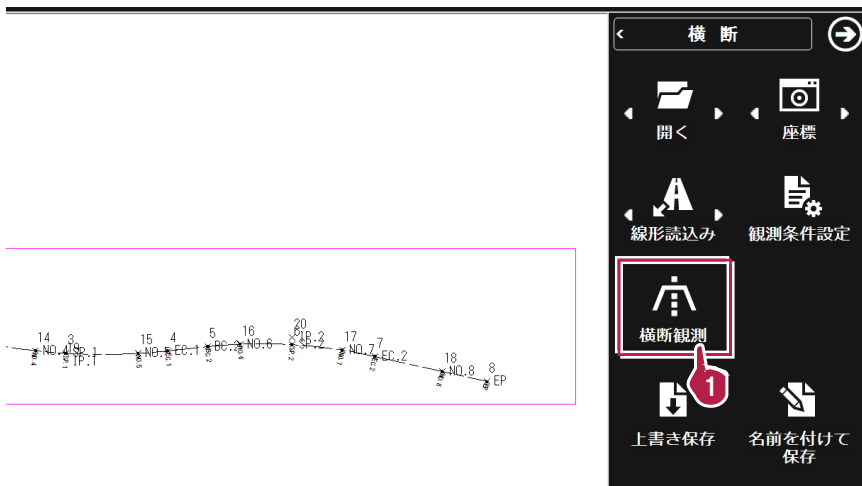
4 読み込むファイルをタップします。

5 [開く]をタップします。



3-7-2 横断観測を起動する

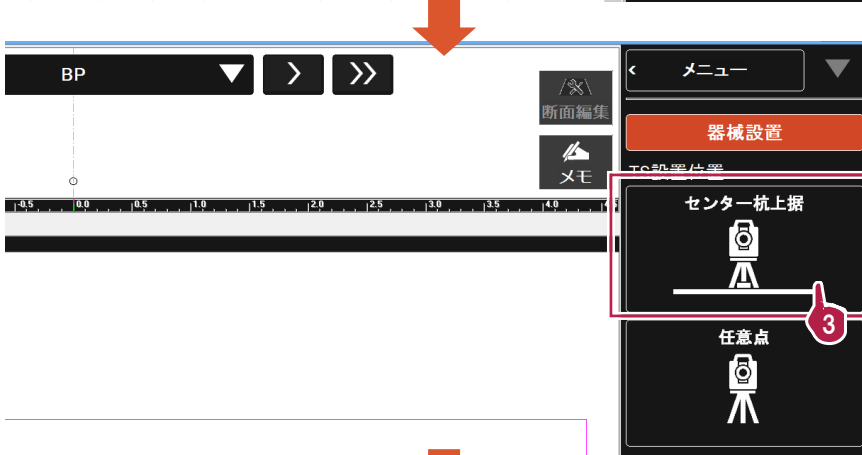
横断観測を起動します。ここでは、読み込んだ線形データを使用して観測をおこないます。



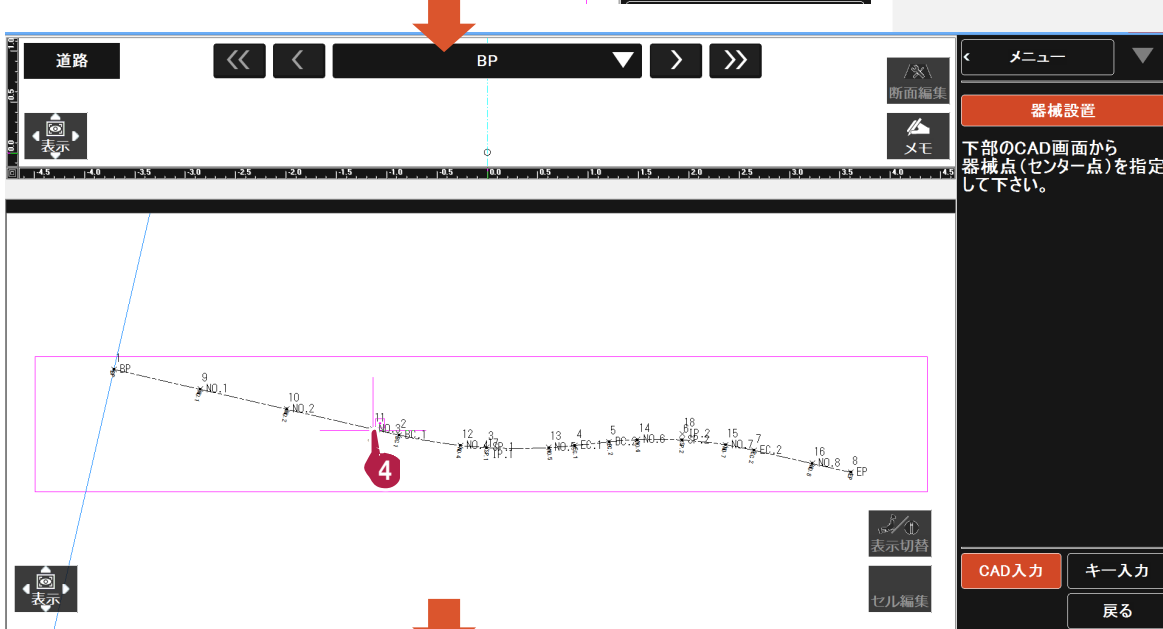
1 [横断観測]をタップします。



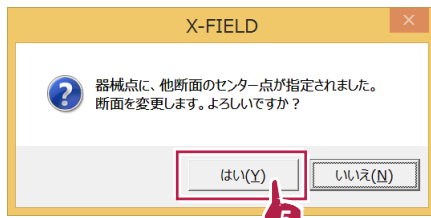
2 [線形+横断]をタップします。



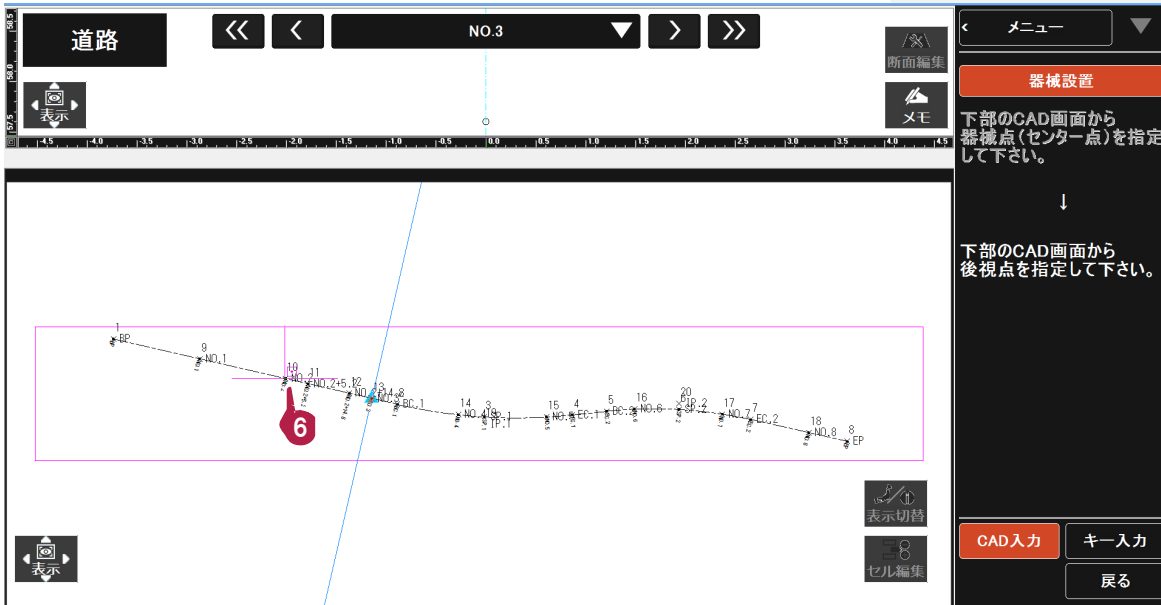
3 器械の設置位置を選択します。
ここでは、[センター杭上据]をタップします。



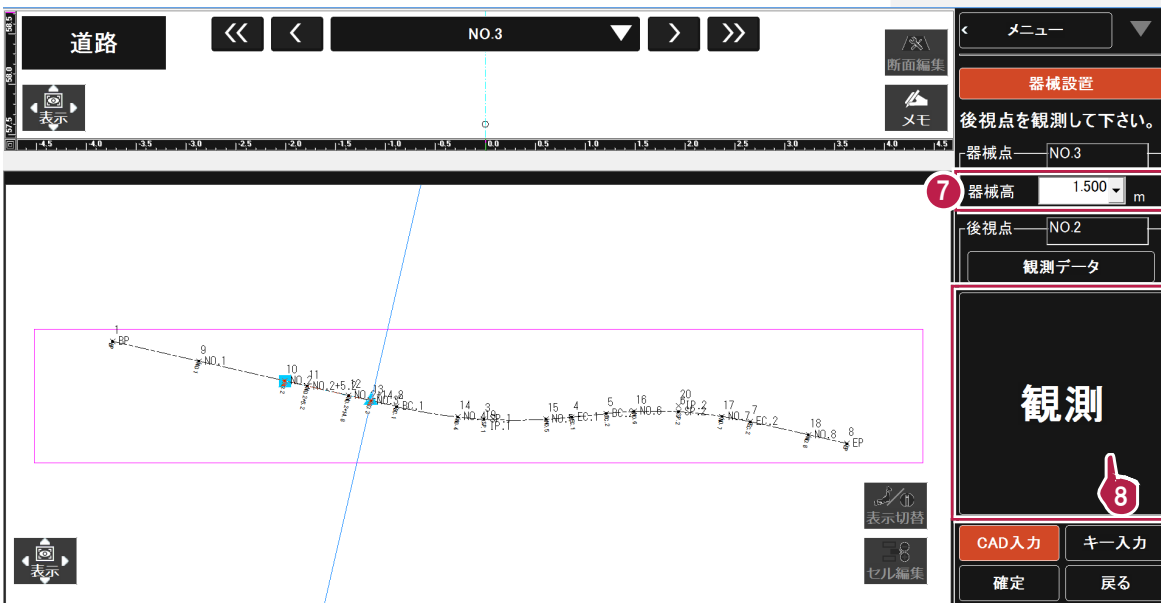
4 CAD画面上の測点から器械点をタップします。



- 5 初期値では先頭の断面が選択されています。
[センター杭上据]で先頭以外のセンターを器械点に指定した場合は、断面変更のメッセージが表示されますので、[はい]をタップしてください。



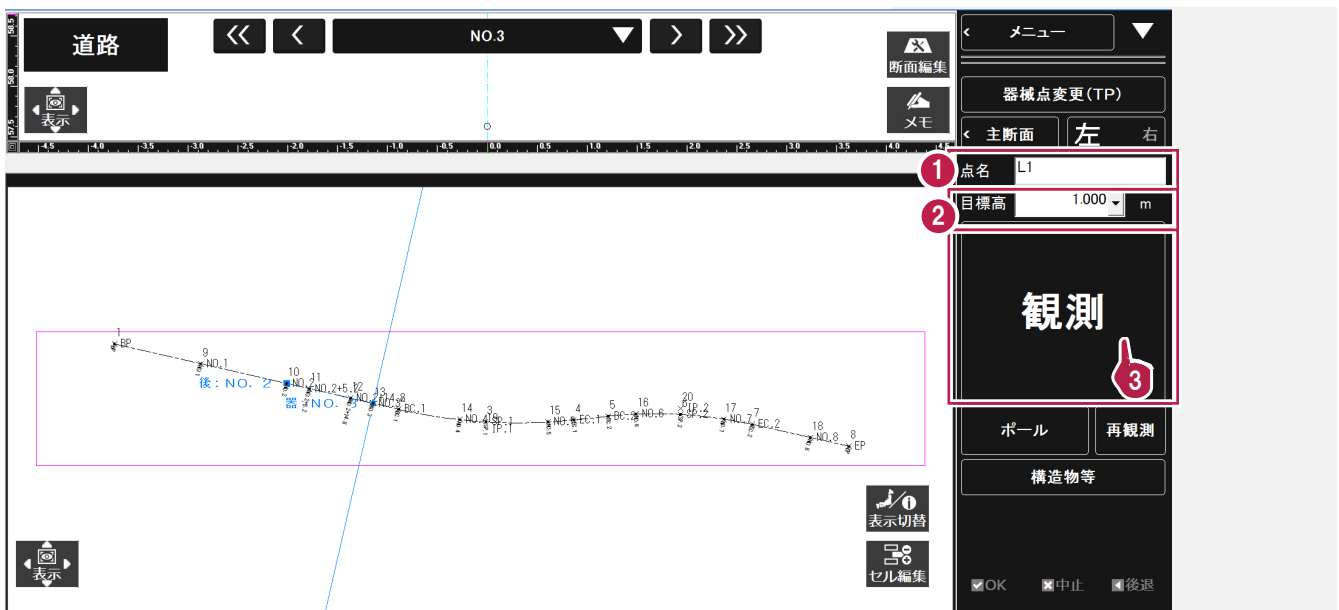
- 6 CAD画面上の測点から後視点をタップします。



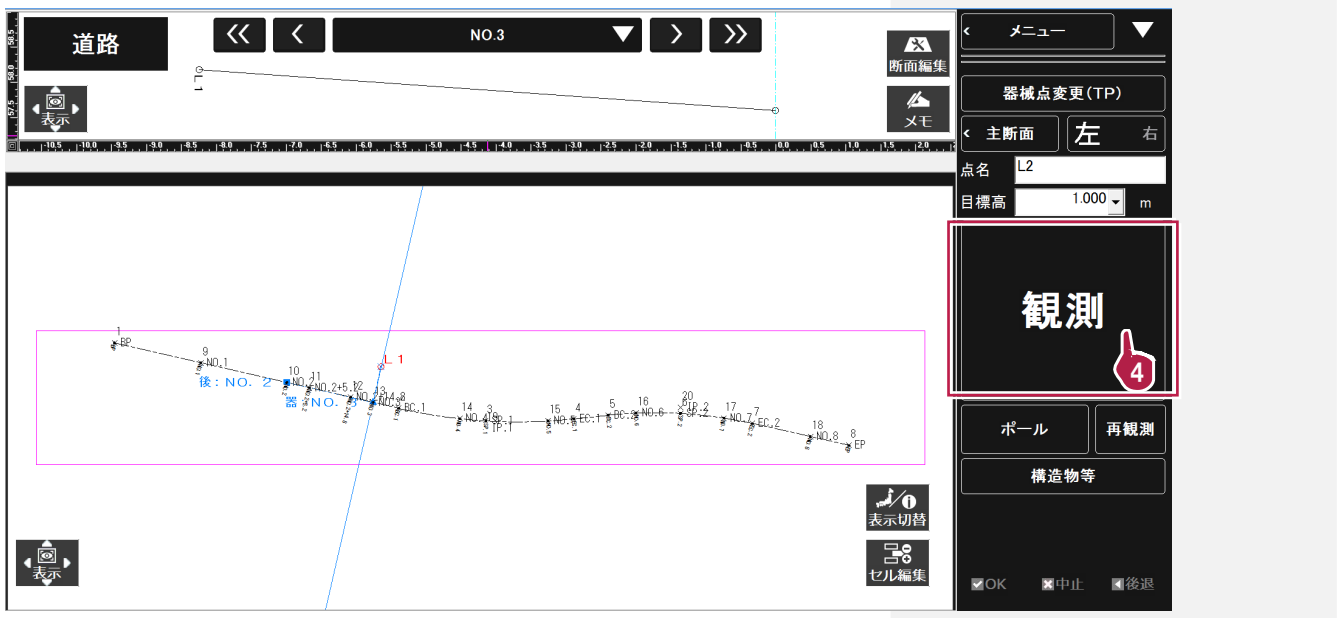
- 7 器械高を入力します。
8 [観測]をタップして、後視点を観測します。

3-7-3 TS観測をおこなう

断面情報の設定と、器械の設置位置の設定を終了したら、トータルステーションで観測します。



- 1 視準点名を入力します。
- 2 目標高を入力します。
- 3 [観測]をタップして、視準点を観測します。



- 4 ①②③を繰り返して、視準点を順に観測します。
このとき[目標高]には前観測の目標高が自動設定されます。[点名]には、前観測の測点名(末尾が数字の場合は連番)が自動で設定されます。

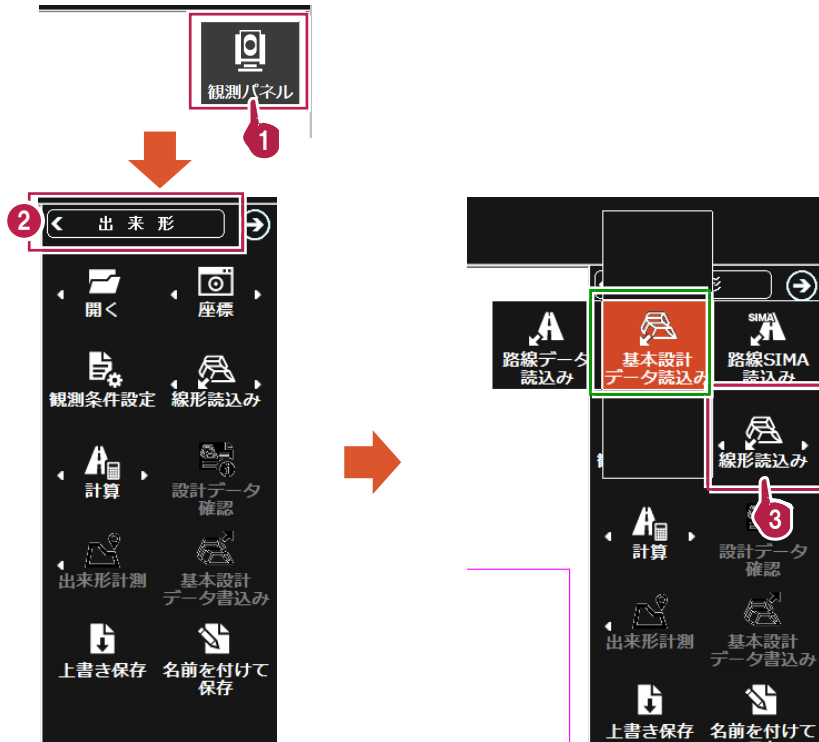
横断観測

3-8 出来形計測

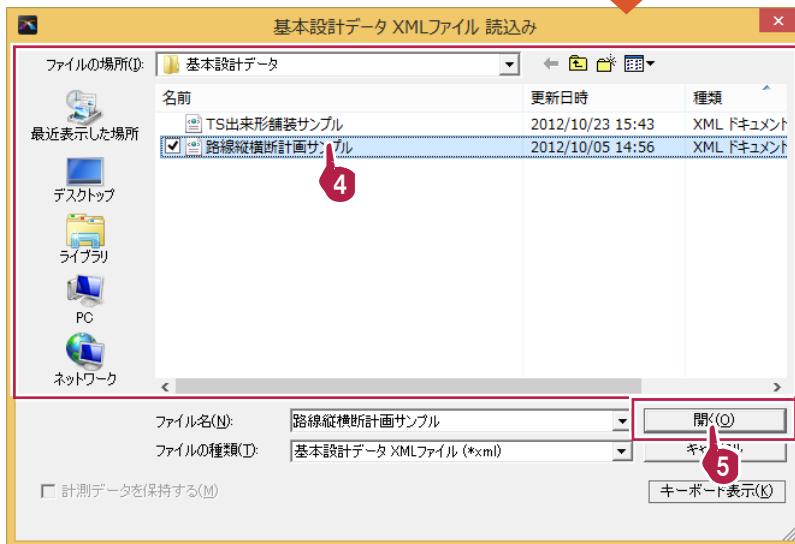
観測パネルで、[出来形]を選択します。出来形計測は、**縦画面**で使用することをお勧めします。

3-8-1 基本設計データを読み込む

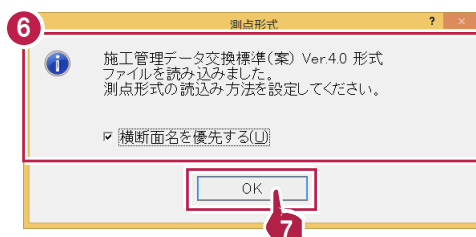
TS 出来形で使用する基本設計データを読み込みます。



- 1 [観測パネル]をタップします。
- 2 [出来形]を選択します。
- 3 [線形読み込み]をフリックして、[基本設計データ読み込み]を選択します。



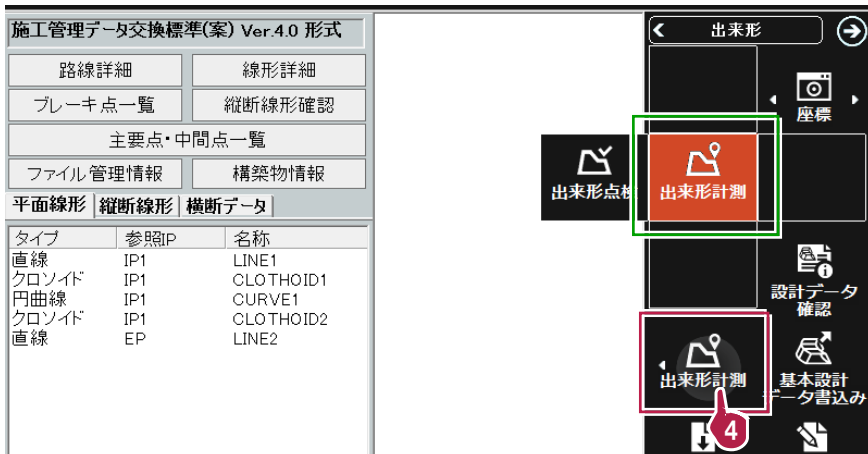
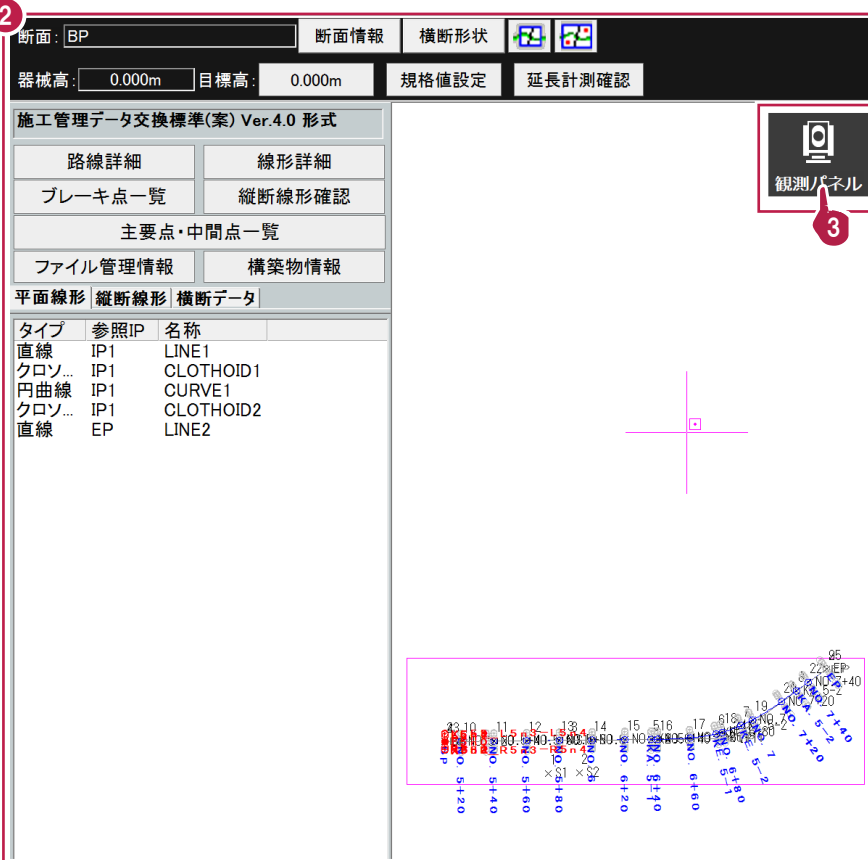
- 4 読み込むファイルをタップします。
- 5 [開く]をタップします。



- 6 測点形式の読み込み方法を設定します。
チェックをオンにした場合はXMLデータの線形で使用されている点名が、そのまま読み込まれます。
チェックをオフにした場合はXMLデータの「構築物情報」-「測点形式」の形式で、点名が読み込まれます。
- 7 [OK]をタップします。

3-8-2 器械を設置する

基本設計データの情報を確認して、器械を設置します。
ここでは、後方交会法で座標値を算出し器械点とします。



1 [設計データ確認]をタップします。

2 読み込んだ基本設計データの情報(平面線形、縦断線形、横断データなど)を確認します。

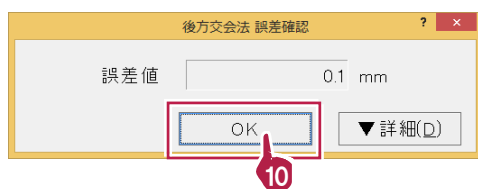
3 [観測パネル]をタップします。

4 [出来形計測]をフリックして、[出来形計測]を選択します。



- 5 [後方交会法観測]をタップします。
- 6 器械高を入力します。
- 7 使用するTSの等級を選択します。
- 8 CADで後視点を指定し、目標高を入力して、観測します。
- 9 後視点の観測を終了したら[入力確定]をタップします。

出来形計測

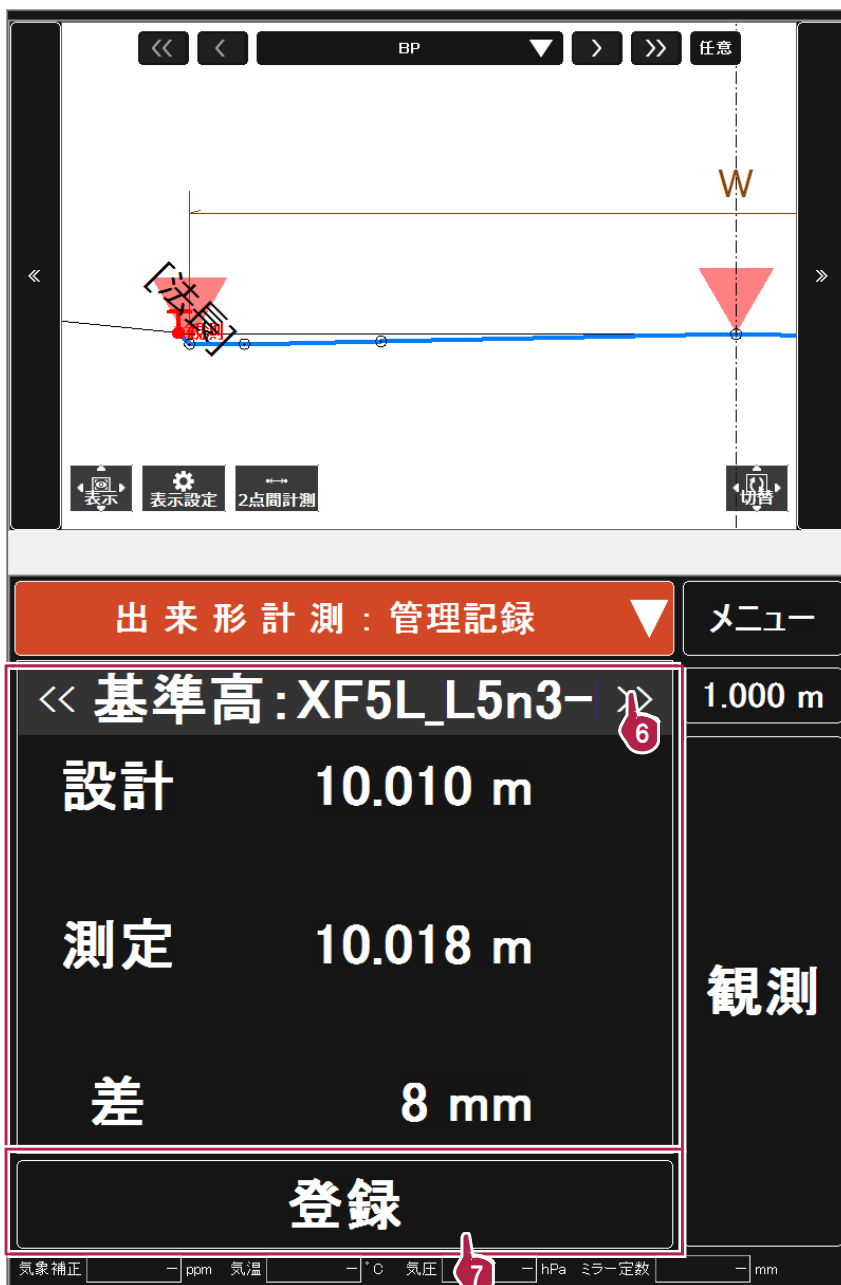


- 10 [OK]をタップします。

3-8-3 出来形計測をおこなう

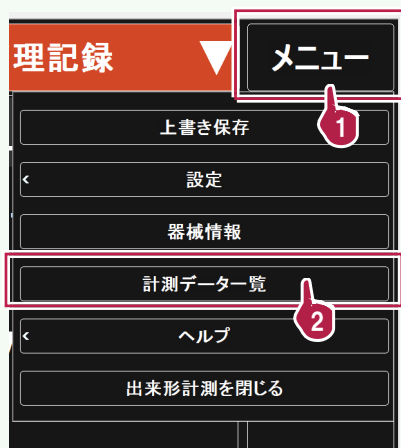
出来形を計測します。

- 1 観測をおこなう横断面を選択します。
- 2 CADで計測点をタップします。
- 3 計測点の情報が表示されます。[<<][>>]で計測点の情報を切り替えることができます。
- 4 目標高を入力します。
- 5 計測点にミラーを設置して、観測をおこないます。



- 6 計測結果が表示されますので、[>>]をタップして設計値と測定値と差を確認します。差が規格値より大きい場合は、赤で表示されます。再観測する場合は、④⑤の操作を繰り返して、再観測をおこないます。
- 7 結果がOKなら、[登録]をタップします。

登録した計測点は[メニュー]—[計測データ一覧]で確認することができます。



No.	計測点識別名	構成点	設計値	観測値	差	X座標	Y座標
1	BP_XF5L_L5n3-I_XF5L_L5n		10.010	9.010	-1.000	33.329845	-40.054848
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							

管理断面 任意断面 測点に登録 閉じる

3-9 GNSS 観測

観測パネルで、[GNSS]を選択します。

3-9-1 基準座標を設定する

基準座標を公共座標系で設定します。

観測パネル

GNSS

観測条件設定

GNSS 基準座標設定

GNSS 観測

上書き保存

名前を付けて保存

GNSS 基準座標設定

使用座標系

公共座標系

任意座標系 (単位:m)

基準局座標

点番	点名		点番	点名
X座標	0.000	リストより	X座標	0.000
Y座標	0.000	画面より	Y座標	0.000
標高	0.000		標高	0.000

任意の既知点座標

点番	点名		点番	点名	待機
X座標	0.000	リストより	X座標	0.000	
Y座標	0.000	画面より	Y座標	0.000	

OK

キャンセル

- 1 [観測パネル]をタップします。
- 2 [GNSS]を選択します。
- 3 [GNSS基準座標設定]をタップします。
- 4 [使用座標系]で「公共座標系」を選択します。
- 5 [OK]をタップします。



接続機種が SOKKIA の場合、SOKKIA SDR1000BASIC がセットアップされている必要があります。

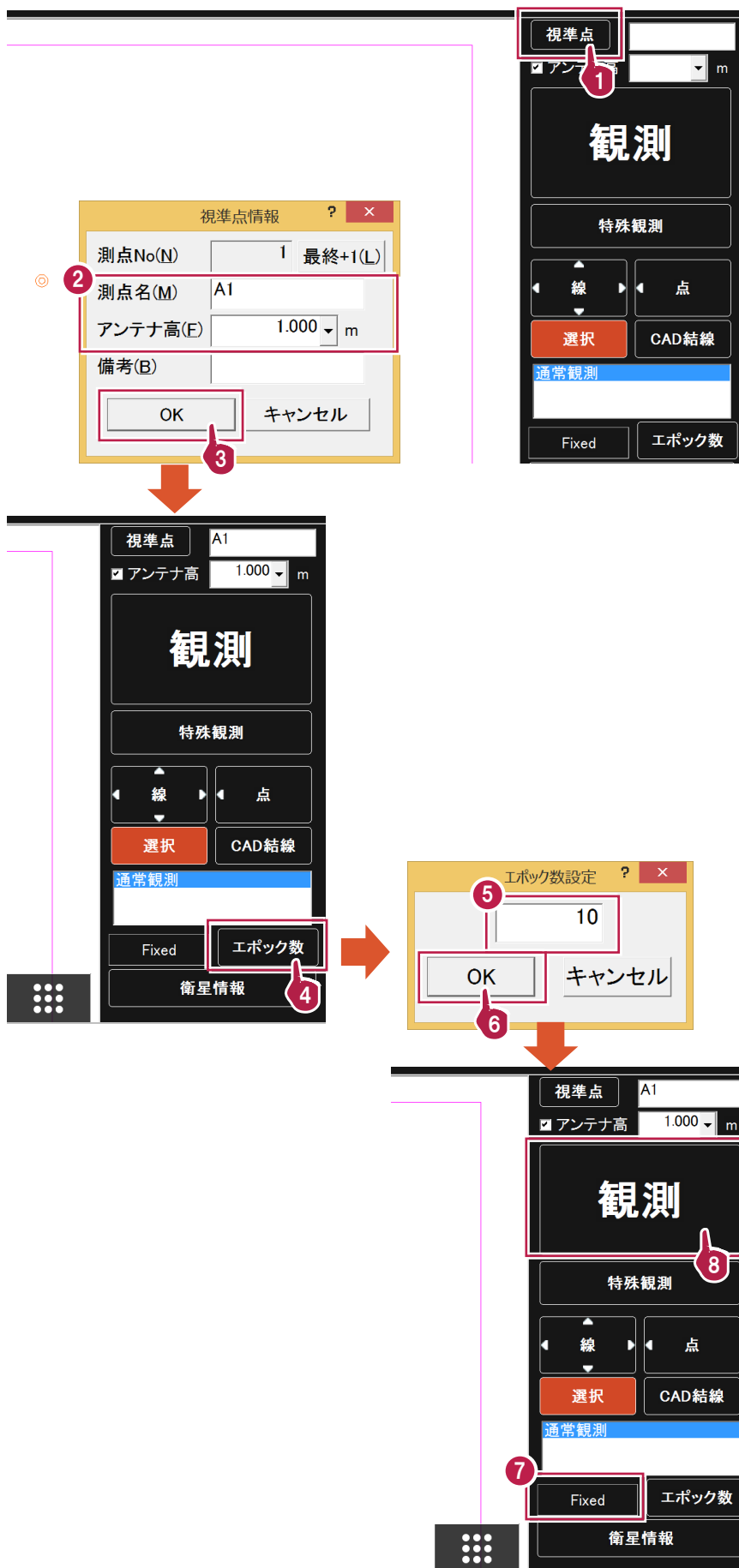
SDR1000BASIC は、[GNSS 観測][GNSS 基準座標設定]で自動起動します。使用する前に、SDR1000BASIC を起動しないように注意してください。

また、SDR1000BASIC での衛星選択、初期位置、時刻、無線機・コンピューターとの通信条件の設定も、予め観測する前に、設定しておいてください。

各設定は SDR1000BASIC プログラムに添付されているプログラム解説書で確認をお願いします。

3-9-2 GNSS 観測をおこなう

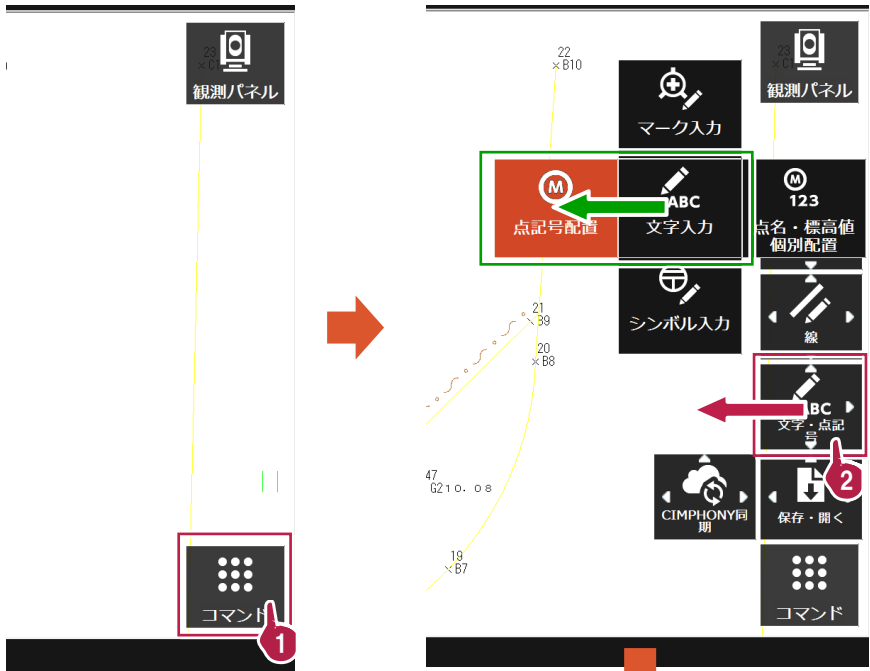
GNSS 観測をおこないます。



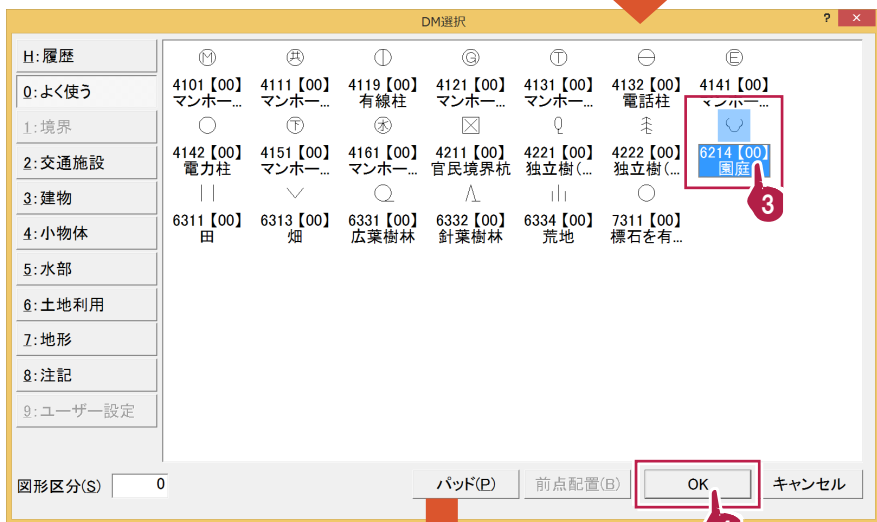
- 1 [視準点]をタップします。
- 2 視準点の測点名、アンテナ高を入力します。
- 3 [OK]をタップします。
- 4 [エポック数]をタップします。
- 5 1観測あたりのデータ取得数を入力します。
- 6 [OK]をタップします。
- 7 [エポック数]の左の[観測測位モード表示]で測位モードを確認します。
- 8 [観測]をタップして、観測します。

4-1 DM 記号配置

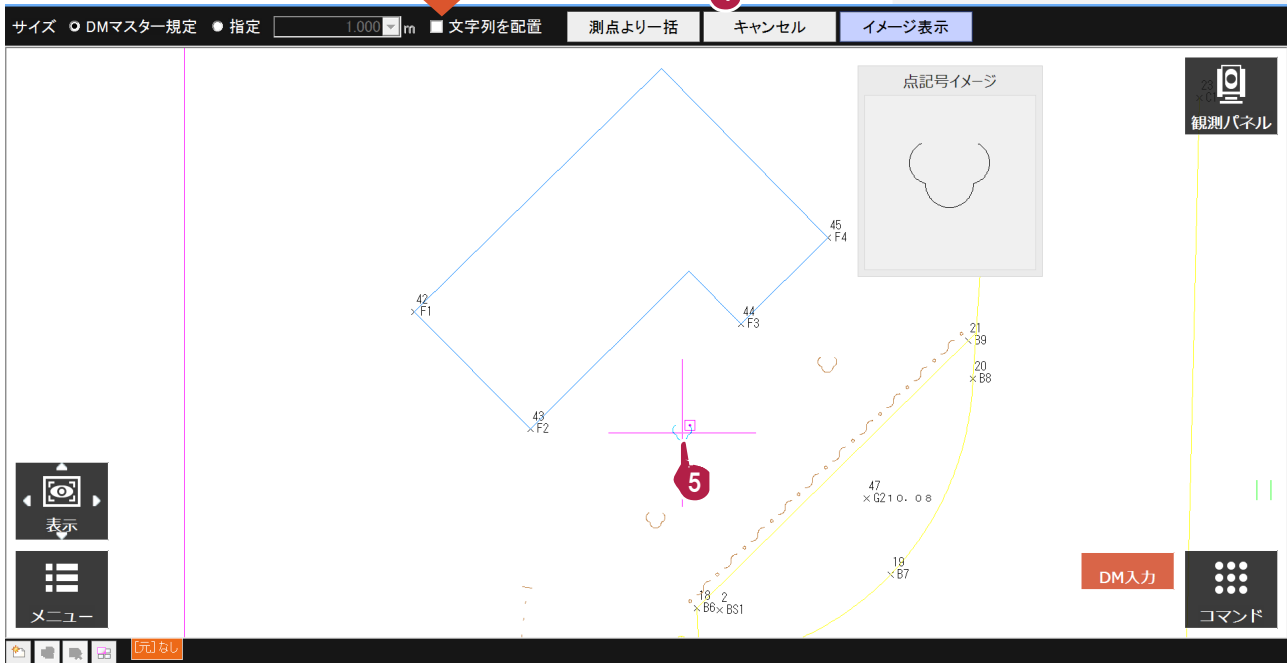
DM記号を配置します。



- 1 [コマンド]をタップします。
- 2 [文字・点記号]を左へフリックして、[点記号配置]を選択します。



- 3 DM記号をタップします。
- 4 [OK]をタップします。




- 5 DM記号の配置位置をタップします。

ご注意

- (1) 本ソフトウェアおよび本文の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本ソフトウェアおよび本文の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- (3) 本ソフトウェアを複数の機械で同時に使用する場合は、機械と同数の本ソフトウェアが必要です。
- (4) 本ソフトウェアの内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら弊社までご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)の項にかかわらず、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。
- (6) 弊社以外のソフトウェアに関するお問い合わせはご遠慮願います。
- (7) データのバックアップについて

お客様が作られたデータはお客様にとって大切な財産です。万が一の不慮の事故による被害を最小限にとどめるために、お客様御自身の管理・責任において、データは必ず定期的に2か所以上の別の媒体(HDD、CD、DVDなど)に保存してください。

また、いかなる事由におきましても、データの破損により生じたお客様の損害は、弊社では補償いたしかねますのでご了承ください。

-
- Microsoft、Windows、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
 - Windowsの正式名称は、Microsoft (R) Windows (R) Operating Systemです。
 - Windows Vistaの正式名称は、Microsoft (R) Windows Vista (R) Operating Systemです。
 - このマークが付いたソフトは(社)全国測量設計業協会連合会と日本測量機器工業会が共同で開発した共通フォーマットに対応しています。
 - UNLHA32.DLLは、Micco氏のフリーソフトウェアです。
 - LEADTOOLS
Copyright (C) 1991-2009 LEAD Technologies, Inc.
 - Adobe、Adobeロゴ、Adobe Acrobat、Adobe Readerは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における登録商標または商標です。
 - ToSpeakは、株式会社東芝の商標です。
 - 東芝製音声合成ソフトウェアの著作権は、株式会社東芝に帰属します。
 - PC-MAPPINGツールライブラリー
CopyRight 2014 Mapcom, Inc.
 - ImageKit7
Copyright (C) 2005 Newtone Corp.
 - InstallShield2015
Copyright © 2015 Flexera Software LLC.All Rights Reserved.
 - 解説画面を含め、本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。
 - BLUETREND、EX-TREND、EX-TREND 武蔵 および EX-TREND MUSASHI は、福井コンピュータ株式会社の登録商標です。